改訂版

道徳教育改善・充実のための

道徳教育
研修ハンドブック

～カリキュラムマネジメントを取り入れた校内研修を目指して～

平成２９年３月

広島県教育委員会

はじめに

グローバル社会や情報化社会が急速に進展する中で，各分野で求められる専門能力を身に付けさせる前提として，人間として踏まえるべき倫理観や道徳性が重要になってきます。また，社会問題になっているいじめ防止の観点からも，社会性や規範意識，善悪を判断する力，思いやりや弱者へのいたわりなどの豊かな心を育む道徳教育の改善・充実が一層求められています。

このような中で，平成 27 年３月に，小・中学校の学習指導要領の一部改正が行われ，「道徳の時間」が「特別の教科　道徳」（以下「道徳科」という。）として新たに位置付けられ，小学校は平成 30 年度から，中学校は平成 31 年度から，全面実施されることとなりました。今回の改正では，発達の段階に応じ，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え，向き合う「考え，議論する道徳」へと質的転換を図り，自己の生き方について，主体的に学ぶことが求められています。

本県においては，平成 26 年 12 月に，「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し，学習者を基点とした能動的で深い学びである「主体的な学び」を平成 30 年度からの全県展開に向けて，道徳をはじめとする授業で，着実に実践しているところです。このことは，本県の道徳の授業が，全国に先駆け，「主体的な学び」の授業実践を行っていくということでもあります。

道徳科における「主体的な学び」が確実に実現するために，各学校で，道徳科を踏まえた校内研修を計画的に行う必要があります。その際の参考資料として活用していただくために，平成 27 年３月に作成した「道徳教育研修ハンドブック」を改訂しました。各学校において，本書を活用し，学校の教育活動全体で行う道徳教育を推進し，児童生徒の豊かな心の育成に役立てていただくことを期待します。

平成 29 年３月

広島県教育委員会豊かな心育成課
課長　山垣内　雅彦

1　道徳教育の基礎・基本
- （１）学校段階に応じた道徳教育
  - ア　道徳教育のねらい
  - イ　道徳教育の進め方
- （２）道徳教育の要としての道徳科
  - ア　道徳科の目標
  - イ　道徳科の特質
  - ウ　道徳科の学習
- （３）道徳教育と道徳科の関係
- （４）道徳性
- （５）道徳教育の内容
  - ア　四つの視点
  - イ　指導内容の重点化
- （６）質の高い多様な指導方法
  - ア　多面的・多角的に考える
  - イ　多様な指導方法
  - ウ　道徳科における「主体的な学び」
- （７）道徳科における評価
  - ア　道徳科の評価に当たって
  - イ　道徳科の評価の方向性

2　道徳の指導計画作成
- （１）校長の方針を明確に示そう！
- （２）道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備しよう！
  - ア　協力体制の充実
  - イ　道徳教育推進教師の役割
- （３）道徳教育の全体計画を作成しよう！
- （４）道徳科の年間指導計画を作成しよう！

3　道徳教育に関する校内研修
- （１）校内研修の進め方
  - ア　研修日・時間の設定
  - イ　校内研修を進める方法
- （２）研修内容例
  - ア　年度当初
  - イ　年度途中
  - ウ　年度途中・年度末

4　道徳科の校内研修
- （１）事前研究をしよう！
  - ア　教材分析
  - イ　学習指導案の作成
  - ウ　学習指導案の検討
  - エ　模擬授業
- （２）授業研究をしよう！
  - ア　ビデオ記録の活用
  - イ　授業記録用紙の活用
- （３）事後研究をしよう！
  - ア　研究協議会
  - イ　ワークショップ型の研究協議
  - ウ　授業評価

5　道徳教育改善・充実のための情報発信

次年度へ向けて…

道徳教育を進めるために

道徳教育こそ，カリキュラムマネジメントを！

Plan　実態把握・計画立案のため

Do　授業実践のために

Check　検証・評価のために

Action　改善のために

Plan　実態把握・計画立案のため

本文中には，「道徳科」と「道徳の時間」の両方の記載がありますが，平成 30 年（中学校は平成 31 年）４月１日からは，「道徳の時間」は「道徳科」と読み替えてください。

道徳教育を進めるために

1　道徳教育の基礎・基本

（１）学校段階に応じた道徳教育

道徳教育はすべての学校段階において一貫して取り組むべきものであり，幼稚園，小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年の各学年段階ごとにその重点を明確にし，より効果的な指導が行われるようにすることが必要です。

幼稚園
規範意識の芽生えを培う。

小学校
生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実する。

中学校
思春期の特質を考慮し，社会とのかかわりを踏まえ，人間としての生き方を見つめさせる指導を充実する。

高等学校
社会の一員としての自己の生き方を探求するなど人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める指導を充実する。

ア　道徳教育のねらい

学校における道徳教育は，児童生徒がよりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ことを目標としており，児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望，自らの人生や未来を拓いていく力を育む源となるものでなければならい。

道徳教育を通じて育成される道徳性は，「豊かな心」はもちろん，「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり，児童生徒の「生きる力」を根本で支えるものです。

イ　道徳教育の進め方

小・中学校…道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，（外国語活動　※小学校のみ），総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童生徒の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。

高等学校…公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて，生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究し豊かな自己形成ができるよう，適切な指導を行う。

高等学校の道徳教育は，小・中学校と異なり道徳科が設けられていないので，小・中学校における道徳教育を踏まえつつ，教育活動全体を通じて指導するための配慮が必要です。

（２）道徳教育の要としての道徳科

ア　道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え（※中学校では，下線部が“物事を広い視野から”となる），自己の生き方についての考えを深める学習を通して，（※中学校では，下線部が“人間としての生き方”となる）道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

イ　道徳科の特質

児童生徒一人一人が，ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。　※（　）は中学校

ウ　道徳科の学習

道徳科では，目標に，道徳性を養うための学習活動がより具体化して示されました。
特に，学習活動として示された，次の四つの事柄を押さえておく必要があります。

○　道徳的諸価値について理解する

道徳的価値とは，よりよく生きるために必要とされるものであり，人間としての在り方や生き方の礎となるものである。道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き，価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

価値理解…内容項目を，人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する。
人間理解…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。
他者理解…道徳的価値を実現したり，実現できなかったりする場合の感じ方，考え方は一つではない，多様であるということを前提として理解する。

○　自己を見つめる

様々な道徳的価値について，自分との関わり，つまりこれまでの自分の経験やそのときの考え方，感じ方と照らし合わせながら，更に考えを深めていくようにする。

○　物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり，多様な価値観の存在を前提にして，他者と対話したり協働したりしながら，物事を多面的・多角的に考えられるようにする。

○　自己（人間として）の生き方について考えを深める

児童生徒は，道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める過程で，同時に自己の生き方についての考えを深めているが，特にそのことを強く意識させることが重要である。

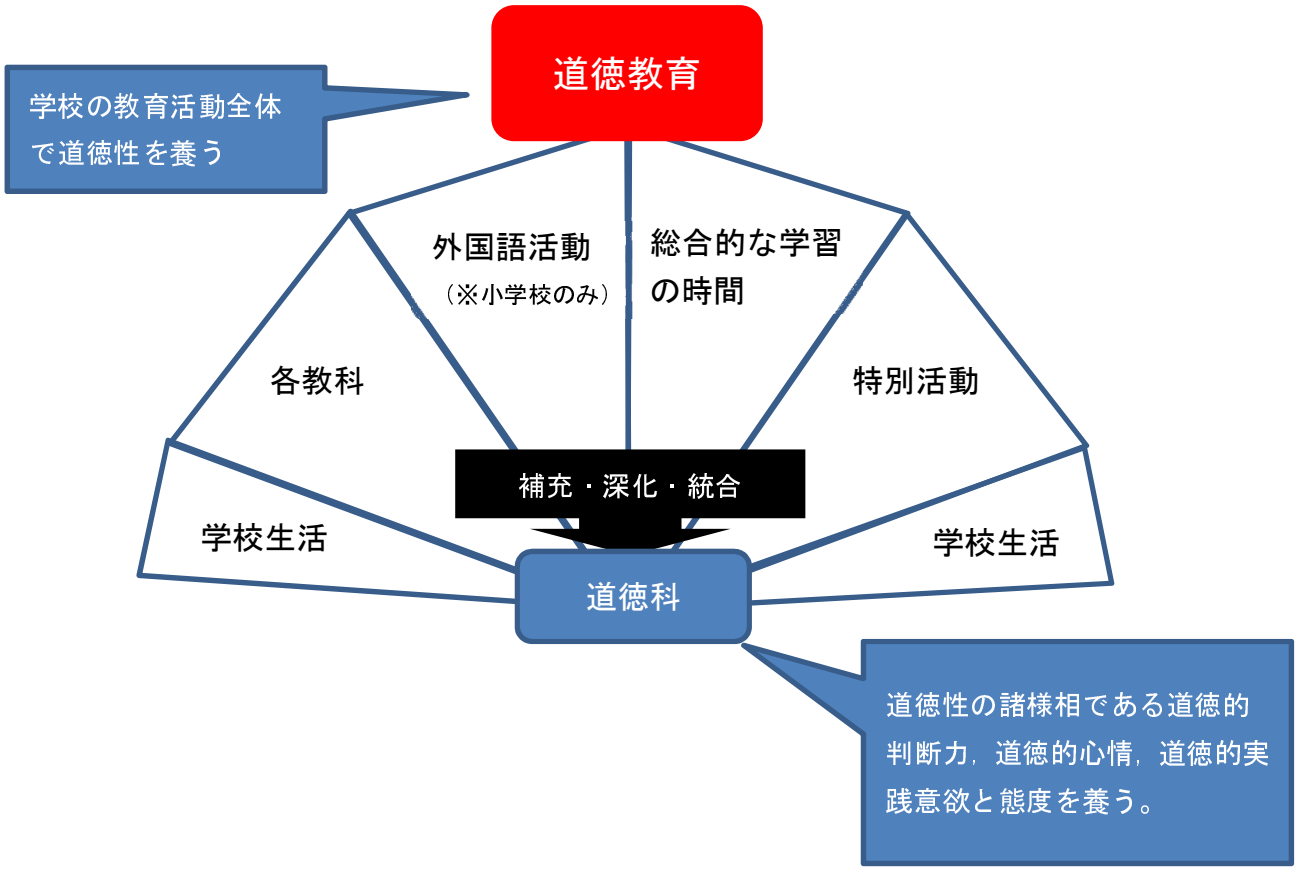
ここがポイント！

○　道徳科は，児童生徒がねらいとする道徳的価値を自己との関わりにおいて捉えることができるように指導方法の工夫に努めましょう。

○　道徳科の学習を効果的に行うためには，学級内での信頼関係の構築が基盤となります。教員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係を育て，一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気を日常の学級経営の中でつくるようにすることが大切です。

（３）道徳教育と道徳科の関係

道徳教育は，学校の教育活動全体を通じて，道徳性を養うことを目標としています。道徳科は，道徳教育でとらえた道徳的諸価値を補充，深化，統合する計画的・発展的な学習により，道徳性の諸様相である，道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を育成する要となる時間として位置付くものです。



各教科等は，それぞれに固有の目標をもっていますので，それらの指導の中で行う道徳教育としては，取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うこと（**補充**）や，児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること（**深化**），相互の関連を捉え直したり発展させたりする（**統合**）道徳科がどうしても必要になってくるのです。

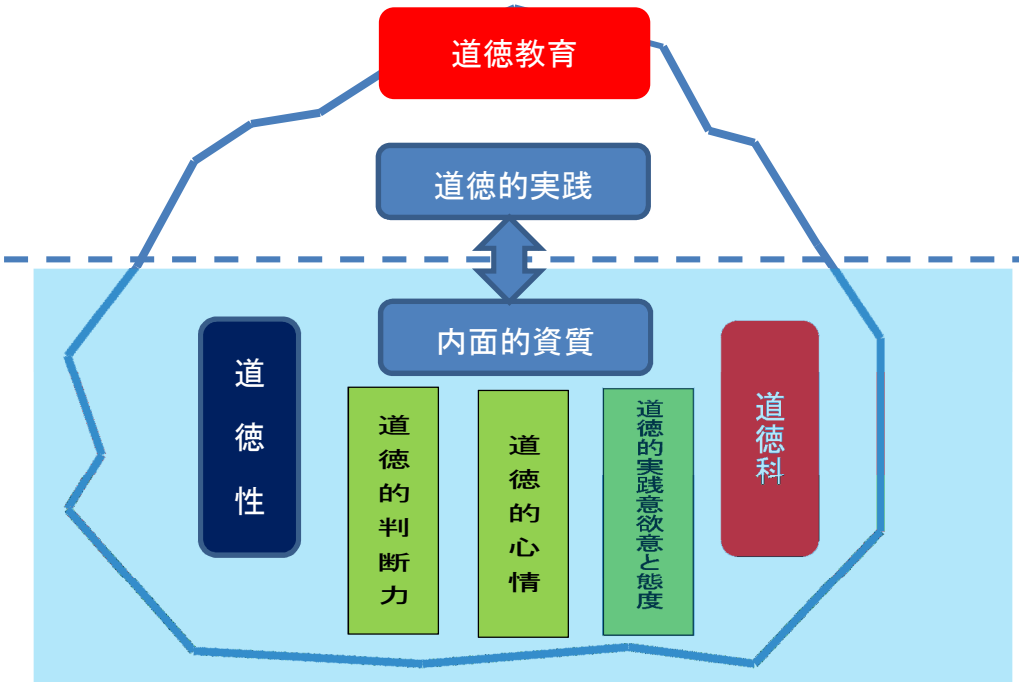
ここがポイント！

○　道徳科は，扇の「要」のように，各教育活動における道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割をもっています。

○　道徳性をはぐくむために，道徳科はもとより，各教科，外国語活動（小学校のみ），総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じて適切な指導を行いましょう。

（４）道徳性

道徳性は，人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり，道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を諸様相とします。これらの諸様相は，序列や段階があるということではなく，日常生活や今後出会うであろう様々な場面，状況で，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践することができる内面的資質のことです。



道徳科の指導は，児童生徒の行為の変容を直接的にねらいとするものではありません。教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合などに終始することのないように留意しましょう。

道徳性は，徐々に，しかも着実に養われることによって，潜在的，持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに，長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ，道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められます。

ここがポイント！

○ **道徳的判断力**

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し，様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

○ **道徳的心情**

道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情のこと。

○ **道徳的実践意欲と態度**

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性。

・**道徳的実践意欲**は，道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き。

・**道徳的態度**は，道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた道徳的行為への身構え。

（５）道徳教育の内容

ア　四つの視点

道徳教育の内容については，小・中学校の各学年・学校段階において四つの視点に分けた内容項目として示されています。この四つの視点は，相互に深い関連をもっており，各学年・学校段階において，関連を考慮しながら，四つの視点に含まれるすべての内容項目について，学校の教育活動全体を通じて適切に指導していくことが大切です。

Aの視点

主として自分自身に関すること
〇善悪の判断，自律，自由と責任
〇節度，節制　　〇個性の伸長
〇真理の探究　など

Bの視点

主として人との関わりに関すること
〇親切，思いやり　　〇感謝
〇礼儀　　〇友情，信頼
〇相互理解，寛容

Cの視点

主として集団や社会との関わりに関すること
〇規則の尊重　　〇公正，公平，社会正義
〇勤労，公共の精神　　〇家族愛
〇国際理解，国際親善　　など

Dの視点

主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること
〇生命の尊さ　　〇自然愛護
〇感動，畏敬の念
〇よりよく生きる喜び

イ　指導内容の重点化

道徳教育を進めるに当たっては，児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえるとともに，学校，地域等の実態や課題に応じて，学校全体及び各学年段階の指導内容ごとの重点化を図ることが大切です。

四つの視点の順序が児童生徒の対象の広がりに即して改善されました。また，それぞれの内容項目に手掛かりとなる「友情，信頼」「生命の尊さ」などの言葉がキーワードとして付記されました。社会的な要請や今日的課題を考慮し，次のような内容の指導について配慮が求められています。

小学校	全	・自立心や自律性　・生命を尊重する心　・他者を思いやる心
	低	・挨拶などの基本的な生活習慣を身に付ける　・善悪を判断し，してはならないことをしない ・社会生活上のきまりを守る
	中	・善悪を判断し，正しいと判断したことを行う　・身近な人々と協力し助け合う ・集団や社会のきまりを守る
	高	・相手の考え方や立場を理解して支え合う　・法やきまりの意義を理解して進んで守る ・集団生活の充実に努める ・伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重する
中学校		・自立心や自律性を高め，規律ある生活をする ・生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てる ・法やきまりの意義に関する理解を深める ・自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養う ・伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重する ・国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける

ここがポイント！

〇　重点内容については，指導時数を増やしたり，他の教育活動との関連を図った道徳学習プログラムにしたりするなどの工夫をしましょう。

〇　内容項目を児童生徒の立場から具体的に捉えるために「私たちの道徳」を活用しましょう。

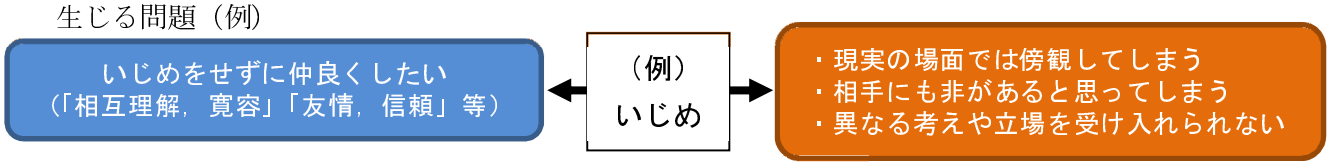
（６）質の高い多様な指導方法

道徳教育の質的転換を図るためには，主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物教材の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく，学校や児童生徒の実態に応じて，道徳的価値に迫る読み物教材の活用や，道徳的価値に関する問題解決的な学習・体験的な学習など，質の高い多様な指導方法を展開することが必要です。

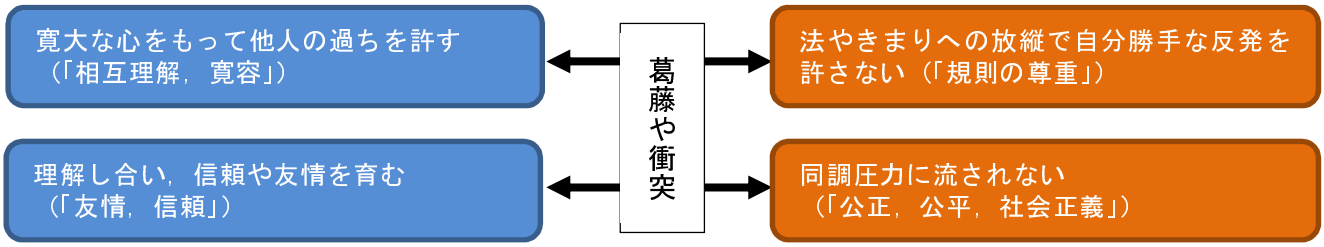
ア　多面的・多角的に考える

問題場面から考える学習の（例）

○　道徳的価値のことは理解しているが，それを実現しようとする自分とできない自分との葛藤から生じる問題（例）



○　複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題（例）



「多面的」に考えることと，「多角的」に考えることの違いは？

一般的には，「多面的」とは，学習対象が様々な面をもっていることを，「多角的」とは，学習対象を様々な角度から考察し理解することを意味しています。実際の指導にあたっては「多面的」と「多角的」は必ずしも明確に分けられるものではないため，道徳科の学習指導要領及び解説においては，「多面的・多角的に考え」とひとくくりで説明されています。

ここがポイント！

○　「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに，自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して，道徳的価値を多面的・多角的に考えさせましょう。

○　他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく，多面的・多角的な思考を通じて，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めさせましょう。

イ　多様な指導方法

文部科学省の専門家会議において，道徳科の質の高い多様な指導方法の例示として次頁に示すとおり，「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」が挙げられています。
それぞれの特長は以下のとおりです。

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し，道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり，登場人物に自分を投影して，その判断や心情を考えることにより，道徳的価値の理解を深めることができる。

問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や，問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問，問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって，道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して，実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して，様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際に体験してみること，また，それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して，道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

ここがポイント！

○　次頁に示した指導方法は例示に過ぎず，それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。それぞれに様々な展開が考えられ，例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど，それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられます。

○　重要なことは，指導する教員一人一人が，学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握し，学校の実態や児童生徒の実態を踏まえて，授業の主題やねらいに応じた適切な工夫改良を加えながら適切な指導方法を選択することが求められるということです。

道徳科における質の高い多様な指導方法（イメージ）

	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
ねらい	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して，道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して，道徳的な問題を多面的・多角的に考え，児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して，道徳的価値の理解を深め，様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	**道徳的価値に関する内容の提示** 教員の話や発問を通して，本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	**問題の発見や道徳的価値の想起など** ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し，道徳的価値の本当の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・適用への問い）。	**道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など** ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で，大切さが分かっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し，問題意識を持つ。
展開	**登場人物への自我関与** 教材を読んで，登場人物の判断や心情を類推することを通して，道徳的価値を自分との関わりで考える。 **【教員の主な発問例】** ・どうして主人公は，○○という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。 ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え，行動することができるだろうか。 **振り返り** 本時の授業を振り返り，道徳的価値を自分との関係で捉えたり，それらを交流して自分の考えを深めたりする。	**問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）** ・道徳的な問題について，グループなどで話合い，なぜ問題となっているのか，問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え，議論を深める。 ・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し，多面的・多角的に検討する。 **【教員の主な発問例】** ・ここでは，何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ，■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 ・どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょう。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 ・なぜ，自分はそのように行動するのでしょう。 ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。 **探究のまとめ（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見）** ・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について，なぜそれを大切にしたのかなどについて話合い等を通じて考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で，実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し，自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って，新たな問いや自分の課題を導き出す。	**道徳的な問題場面の把握や考察など** ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど，道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で，何が問題になっているかを考える。 **問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など** ・ペアやグループをつくり，実際の問題場面を役割演技で再現し，登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し，道徳的行為を体験し，その行為をすることの難しさなどを理解する。 **道徳的価値の意味の考察など** ・役割演技や道徳的行為を体験したり，それらの様子を見たりしたことをもとに，多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え，道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して，取りうる行動を再現し，道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しを持たせる。
終末	**まとめ** ・教員による説話。 ・本時を振り返り，本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 ・道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し，自分なりの考えをまとめる。 ・感想を聞き合ったり，ワークシートへ記入したりして，学習で気付いたこと，学んだことを振り返る。		

ウ　道徳科における「主体的な学び」

道徳科における「主体的な学び」とは，教材に込められた道徳的価値を観念的・一面的に理解させるのではなく，児童生徒がねらいとする道徳的価値について課題意識をもち，自分の生活を見つめながら他者と議論することで，道徳的価値の理解を深め，自己の生き方について考えを深める学習です。さらに，理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り自らの成長を実感したり，これからの課題や目標を見付け，その結果を日常生活の行動や習慣に結びつけたりしていくことです。

＜「主体的な学び」を目指した学習指導過程例＞

導入	主題に対する児童生徒の興味や関心を高め，ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階	**導入の工夫** ○見通しを持って主体的に考え，学ぶことができるようにする。 ・主題に対する児童生徒の興味や関心を高め，問題意識を持たせるように工夫する。
展開	ねらいを達成するための中心となる段階であり，中心的な教材によって，児童生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階	**展開の工夫** ○他者の考えと比べ自分の考えを深める展開となるようにする。 ○教材や生活体験などを生かしながら，一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ・発問を工夫する。（例：児童生徒の考えの根拠を問う発問や問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問など） ・一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができる表現活動や話合い活動を仕組む。
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり，道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして，今後の発展につなぐ段階	**終末の工夫** ○主題を自分との関わりで捉え自己を見つめ直し，発展させていくことへの希望がもてるようにする。 ・学んだ道徳的価値に照らして，自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫する。 ・必要に応じて，授業開始時と終了時における考えがどのように変容したのかが分かるような活動を工夫する。

「ねらい」「内容」「方法」の一体化が重要です。
次のポイントを踏まえた指導を行いましょう。

ここがポイント！

○　まず，ねらいとする道徳的価値についての児童生徒のこれまでの学習状況や実態をしっかりと把握し，それを基に，学習指導要領を踏まえ，この時間にどういった学習活動を通して，何をねらうのかを明確化・具体化します。

○　次に，教材に対する児童生徒の感じ方や考え方を分析し，児童生徒がどのような問題意識をもって学習に臨み，ねらいとする道徳的価値を理解し，自己を見つめ，多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら，それらが効果的になされるための発問や授業全体の展開など，学習指導過程を考えます。

○　その際には，児童生徒が道徳的な問題を自分事として捉え，議論し，探究する過程を重視し，道徳的価値に関わる自分の考え方，感じ方をより深めるようにするために，児童生徒の実態やねらいに応じた適切な指導方法を工夫する必要があります。

（７）道徳科における評価

評価の基本的な考え方は，児童生徒の側から見れば，自らの成長を実感し，意欲の向上につなげていくものであり，教員の側から見れば，教員が目標や計画，指導方法の改善・充実に取り組むための資料です。

道徳科においては，児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要があります。ただし，数値などによる評価は行わないものとします。

ア　道徳科の評価に当たって

・数値による評価ではなく，記述式とすること
・個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること
・他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価として行うこと
・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
・道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

道徳科の評価は，一つ一つの内容項目ごとに，その内容項目についてどのくらい理解したかということを評価するものではありません。道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったか，道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたかといったことを，学期や学年など一定のまとまりの中で，道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り評価するということを示したものです。

なお，一定のまとまりの中で評価した結果として，特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について，評価の中で触れるということは考えられます。

イ　道徳科の評価の方向性

○　指導要録においては当面，一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について，発言や会話，作文・感想文やノートなどを通じて，次のような点に注目して見取り，特に顕著と認められる具体的な状況を記述する，といった改善を図ることが妥当。
　・　他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
　・　多面的・多角的な思考の中で，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
○　評価に当たっては，児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり，１回１回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため，年間 35 時間の授業という長い期間で見取ったりするなどの工夫が必要。

道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は，「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから，調査書に記載せず，入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があります。

ここがポイント！

○　道徳性の評価の基盤には，教員と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解が存在することが重要です。
○　児童生徒の成長を見守り，努力を認めたり，励ましたりすることによって，児童生徒が自らの成長を実感し，更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すことが求められます。
○　道徳性は，極めて多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから，個人内の成長の過程を重視すべきです。

2　道徳の指導計画作成　～「道徳教育の全体計画」と「道徳科の年間指導計画」～

道徳の指導計画については，道徳教育の全体計画作成事項が学習指導要領解説総則編（抄）において，道徳科の年間指導計画作成事項が学習指導要領解説「特別の教科　道徳」編において，それぞれ示されています。したがって，各学校においては，校長が道徳教育の方針を明確にし，指導力を発揮して，全教員が協力して道徳教育を展開するため，道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心として，「道徳教育の全体計画」とそれに基づく「道徳科の年間指導計画」を作成する必要があります。

（１）校長の方針を明確に示そう！

道徳教育は，学校の教育活動全体で取り組むものであり，**校長は学校の道徳教育の基本的な方針を全教員に明確に示す**ことが求められています。そのためには，校長は道徳教育の改善・充実の方向を視野におき，

① 児童生徒の道徳性にかかわる実態，
② 学校の道徳教育推進上の課題，
③ 社会的な要請や家庭や地域の期待などを踏まえ，

学校の教育目標とのかかわりで，道徳教育の基本的な方針を明示する必要があります。

「児童生徒の道徳意識調査」，「アンケート調査」，「教職員の意見」，「社会背景」等を参考にして，実態把握をしましょう。

＜道徳教育の重点目標の改善例（Ａ小学校の例）＞

改善前
人間尊重の精神を生かし，道徳的心情と道徳的判断力を高め，道徳性を養う。

漠然とした目標で，学校として何を重点に道徳教育を行うのかが分かりにくい。そのため，各学年の道徳の重点内容項目もばらばらで，学校として意識統一した指導ができていない・・。具体性のある目標に修正しよう。

教育基本法に示されている公共の精神等，日本人がもっていた「規範意識」を重視したい。

教育委員会が目指す「思いやりと規範意識のある人間」を尊重しよう。

子供たちには，相手のことを思いやり，しっかりとした規範意識をもった人間に育ってほしい。

本校の子供たちは，明るく元気でやる気もあるが，学校の約束や社会のきまりを意識して生活することが十分でない。

ポイントは，**「思いやり」と「規範意識」！**

Ｂの視点，特に「親切，思いやり」
Ｃの視点，特に「規則の尊重」

改善後
人間尊重の精神を生かし，思いやりの心をもって，規範を尊重しようとする児童を育成する。

ここがポイント！

○　道徳の内容との関わりを明らかにして，道徳教育の重点目標を設定します。道徳の内容項目も参照して，分かりやすい目標にすると，学校の重点内容項目とのつながりが出てきます。

（２）道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備しよう！

ア　協力体制の充実

校長の方針の下，学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるために，全教員が力を発揮できる体制を整える必要があります。協力体制をつくるに際しては，まず，全教員が参画する体制を具体化するとともに，そこでの**道徳教育の推進を中心となって担う教員を位置付ける**ようにしましょう。

イ　道徳教育推進教師の役割

道徳教育推進教師が全体を掌握しながら，全教員の参画，分担，協力の下に道徳教育が円滑に推進され，充実していくように働き掛けていくことが望まれます。

＜道徳教育推進教師の役割として考えられる事柄と具体的な行動例＞

	事　　柄	具　体　的　な　行　動　例
ア	**道徳教育の指導計画の作成に関すること**	・道徳教育の重点目標を全教員が共通認識できる機会をつくる。 ・見直しの視点を示す。（実態から，重点目標から等） ・指導記録を計画の見直しに生かせるように，指導記録を使った見直しの機会をつくる。
イ	**全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること**	・学校の重点内容項目を，機会（学校行事・体験活動等と関連して）を見つけては確認する。 ・年間１回以上，各教科，総合的な学習の時間等との関連，体験活動や地域とのつながり等を年間計画や別葉をもとに見直す機会をつくる。
ウ	**道徳科の充実と指導体制に関すること**	・校内授業研，道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。→記録の蓄積 ・ティーム・ティーティング（TT）授業を計画する。（ゲストティーチャーの活用も含め） ・複数学年，学級による合同授業を計画する。 ・ゲストティーチャー一覧表を作成し，共有化を図る。 ・全職員で関わるような仕組みを作る。※（所属校内部会の活用）
エ	**道徳用教材の整備･充実･活用に関すること**	・教材，掲示物，板書記録の保存と活用を行う。（保管場所の明示，提出数の明示，機能的に活用できるように） ・地域教材の開発に向けた計画，支援を行う。
オ	**道徳教育の情報提供や情報交換に関すること**	・研修報告の機会を確保する。 ・校内で紹介したい資料を収集する。 ・近隣の学校で研究授業に参加しあう。 ・ＨＰに「道徳教育」のページを設ける。
カ	**道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること**	・授業公開，懇談会を企画する。（保護者参加型授業も含めて） ・家庭，地域との連携方法を明確にする。 ・ＨＰに「道徳教育」のページを設ける。 ・学校便り，学級便りに意図的に掲載するように働きかける。
キ	**道徳教育の研修の充実に関すること**	・校内授業研修，道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。 ・模擬授業の実施を提案する。
ク	**道徳教育における評価に関すること**	・学校自己評価へ位置付ける。 ・子供の道徳性の見取りについて，共通理解を進める。（上段キと関連） ・記録の仕方を統一する。 ・保護者や外部の方の声を集める。

＜道徳教育推進教師の活動計画（例）＞

年度初めに，道徳教育推進教師としての活動の時期や内容を計画しておきましょう。

道徳教育の重点目標：自分自身と向き合い，誠実に生きていく子供を育てる。
自他の生命を尊重し，大切にする子供を育てる。
集団の中で自分の責任を果たし，主体的に協力する子供を育てる。

道徳教育の指標：
・人の気持ちがわかる人間になりたい。（肯定的回答 90％以上）
・人が困っているときはすすんで助けている。（肯定的回答 90％以上）
・児童会や学校行事などにおいて学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしている。（肯定的回答 90％以上）

月	○○市推進協議会	道徳教育推進計画	道徳教育推進教師が行うこと
4	第１回協議会 ＜6 月 18 日＞ ○研究授業 ○道徳教育推進教師の役割について	・校内道徳教育推進委員会の確立 ・道徳教育推進体制の確立 ・全体計画・年間指導計画の確認 ・研究授業の計画，授業評価項目の協議 ・道徳用教材の確認 ・児童実態の共有 ・教材分析研修 ・道徳科についてのアンケート調査の実施 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・道徳推進委員会の活動計画提案 ・全体計画・年間指導計画の見直しの視点及び具体的な取組の提案 ・授業評価シートの作成提案 ・アンケート調査作成提案 ・教材の管理 ・研修だよりの発行 ・道徳科における指導・助言 ・アンケート調査の集計・分析 ・アンケート調査，全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
5			
6			
7			
8			
振り返り	○ほぼ計画通り提案し，実行することができた。		
9	第２回協議会 ＜8 月 25 日＞ ○模擬授業 ○道徳科の授業づくりについて 第３回協議会 ＜11 月 7 日＞ ○研究授業 ○講師講話	・アンケート調査 ・研究授業の実施 ・道徳参観日の実施 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・○○市道徳教育推進協議会での研修内容について情報伝達 ・事後研究をもとに授業改善策を提案 ・家庭や地域社会からの意見を分析・改善策の提案 ・全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
10			
11			
12			
振り返り	○道徳参観日の効果的な実施のための提案を行うことによって，道徳参観日には，学校の道徳教育に関する方針や取組を発信するとともに，各学級で保護者等参加型道徳授業と意見交換を行い，家庭・地域との共通理解が図られた。		
1	第４回協議会 ＜1 月 28 日＞ ○研究授業 ○今年度のまとめ	・研究授業の実施 ・道徳教育に関する取組実態の共有 ・アンケート調査 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・事後研究をもとに授業改善策を提案 ・道徳教育に関する調査（県）の回答作成 ・アンケート調査の集計・分析 ・アンケート調査結果，全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
2			
3			
振り返り	○児童生徒の意識調査を実施・分析し，児童の実態に応じて取組の改善が図られた。 △道徳科における指導・助言について，計画的に十分に行うことができなかった。来年度は○○市道徳教育推進協議会での研修内容を踏まえ，研修計画に基づいて計画的に行いたい。		

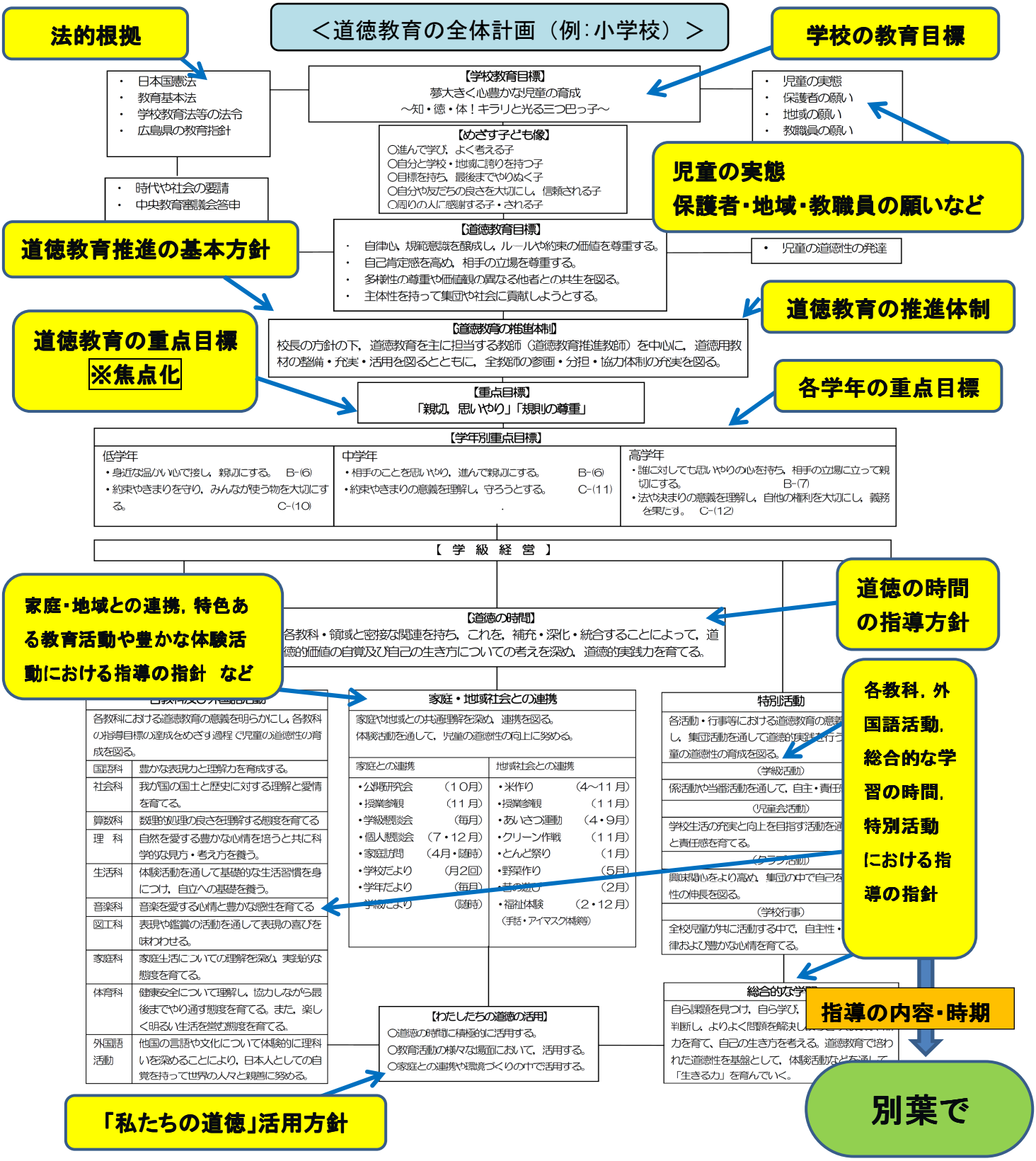
ここがポイント！

○　道徳教育推進教師の活動計画を作成することで，活動内容や時期が明確になり，機能化が図られます。また，道徳教育推進教師が変わっても同様な活動が期待できます。

（３）道徳教育の全体計画を作成しよう！

全体計画の作成に当たっては，理念だけに終わることなく，**具体的な教育実践に生きて働くもの**になるよう，体制を整え，全教員で創意工夫して作成することが大切です。

また，各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして，年間を通して具体的に活用しやすいものとすることが考えられます。



＜道徳教育の全体計画　別葉（例）＞

より実効性の高い全体計画とするためには，各教科等における道徳教育の指導内容や時期を示した別葉を作成して活用しましょう。

①　内容項目ごとに各教科等における道徳教育に関わる内容及び時期を示した例

（中学校第2学年）

各教科等ごとに

【道徳教育と各教科・領域等との関連（中学校第2学年）】

内容項目 ＼ 各教科・領域			国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
A	(1)	自主，自律，自由と責任								
	(2)	節度，節制							健康と環境・障害の防止（4月～12月）	衣生活・住生活と自立（6月～3月）
	(3)	向上心，個性の伸長	アイスプラネット（4月）				自分の思いを歌声にのせよう（5月）	画家新聞（6月） ふるさとの木のぬくもり（11月） 遠近法（2月）	水泳（7月） 長距離走（9月） 跳箱運動（10月）	
	(4)	希望と勇気，克己と強い意志	見えないだけ（4月）						長距離走（9月）	
	(5)	真理の探究，創造			三角形・四角形（12月）	科学偉人伝等（通年）		遠近法～理想の部屋～（2月）		
B	(6)	思いやり，感謝								
	(7)	礼儀							柔道（11月）	
	(8)	友情，信頼	走れメロス（1月）					画家新聞（4月）	バレーボール（6月） サッカー（12月）	
	(9)	相互理解，寛容								
C	(10)	遵法精神，公徳心								
	(11)	公正，公平，社会正義			確率（2月）					
	(12)	社会参画，公共の精神								
	(13)	勤労								
	(14)	家族愛，家庭生活の充実	盆土産（6月） 字のない葉書（9月）							家族・家庭と子どもの成長（12月）
	(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実					仲間とともに表情豊かに合唱しよう（10月）	画家新聞（4月）		
	(16)	郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	いにしへの心を尋ねる【古文・漢詩】（10月） 方言と共通語（2月）				日本の郷土芸能（1月） 歌舞伎について（2月）	ふるさとの木のぬくもり（11月）		

重点目標

四つの視点と内容項目ごとに

指導する内容項目について，どの教科等で，いつ，どのような道徳教育を行うのかなどを意識した指導につながります。また，重点内容項目を強調することで，道徳教育の重点化が図られます。

② 道徳の時間と各教科等ごとに，道徳教育に関わる内容及び時期を示した例（小学校第5学年）

学校教育目標，道徳教育の重点目標，学年重点目標を踏まえた別葉

学校教育目標
すすんで　きたえ みがき　のびる
～社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子供の育成～

道徳教育の重点目標
○友達のよさを見つけ，自ら進んで一緒に働き・遊び・学ぶ子供を育てる。
◎夢をもち，自ら進んで正しく生きようとする子供を育てる。
○身の回りに目を向け，甲奴のよさを見つけ自ら進んで表現できる子供を育てる。

【高学年重点目標】
○友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていく。【B(10)友情，信頼】
◎誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努める。【C(13)公正，公平，社会正義】
○我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつ。【C(17)伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度】

月ごとに

★体験活動

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳の時間	いつも全力でA希望 オーストラリアで学んだことB礼儀 遠足の子どもたちA善悪	友の命B友情 流行おくれA節度 見えた答案A正直	天からの手紙A真理 きまりは何のためにC規則 たったひとつのたからものD生命 ーふみ十年D自然	ちんもくのメッセージC伝統 母の退院C家族 消えたマイケルC公正	父の仕事(電車の運転士)C勤労 ベートーベンA希望 わたしのボランティア体験C勤労	心のレシーブB友情 微生物の力を借りて人々を救う～大村智D生きる 星野くんのこるい打C規則 世界最弱のヒーロー，アンパンマンC公正	親から子へ，そして孫へとC伝統 友愛の鐘C国際 イルカの海を守ろうD自然 ひさの星D感動	うばわれた自由A善悪 すれちがいB相互	正月料理C伝統 愛の日記C公正 くずれおちたダンボール箱B親切	残った仕事C学校 知らない間の出来事B友情 黄熱病とのたたかいB感謝 感動したこと，それがぼくの作品A個性	ありがとう上手にB感謝 バトンをつなげC学校
学校行事等	入学式B礼儀 始業式A希望 交通安全教室A節度 ★遠足B友情C規則	★運動会C公正B友情	新体力テストA希望 プール開きA希望	★ふれあい交流会C伝統 終業式A正直 ★宿泊体験活動B友情C学校 ★水泳記録会C公正	始業式A希望 社会見学C規則D生命	防犯教室D生命 ★学習発表会B友情		終業式A正直	始業式A希望	★百人一首大会A希望	卒業式B礼儀B感謝 修了式A希望
児童会活動	児童総会C勤労 1年生を迎える会B友情		平和について考えようD生命	遊び集会B友情	児童会役員選挙C公正C学校	児童総会C勤労		遊び集会B友情		児童会役員選挙C公正C学校	6年生を送る会B友情B感謝C学校
特別活動（学級活動）	学級開きA希望 班や係を決めようC学校 遠足に向けてB友情C規則	給食当番B友情 運動会の目標A希望C学校 手洗いの大切さA節度	水泳A希望C規則 委員会活動についてC学校 宿泊体験活動に向けてB友情C学校 むし歯予防A節度	夏休みの生活A節度C家族 1学期のまとめA正直 よりよいくらしC学校	2学期の目標A希望 班と係の編成C学校 どんな食べ方がいいのかなA節度	学校をきれいにC規則 大切な目A節度 運動と健康A希望	読書A真理 学習発表会をふり返ってB友情C学校 朝食と睡眠A節度 避難訓練A節度	2学期の反省A節度 冬休みの計画C家族 冬の健康な生活A節度	3学期の目標A正直 体力づくりA希望 風邪予防A節度	雪の日の過ごし方A節度 児童会活動をもりあげようB友情 6年生を送る会に向けてB友情B感謝C学校	食生活を振り返ろうA節度 一年間のまとめA正直 もうすぐ6年生C学校
総合的な学習の時間(※キャリア教育)	※★米作りに挑戦しよう！C伝統			※★つながる三次！ ～ボランティアをしよう～ B友情C勤労		※★お米のすばらしさを伝えよう C伝統		※米から変身！甲奴のお酒造りC伝統			
その他の教科	（国）春の空C伝統 （社）世界の中の国土C伝統 ★（音）ゆたかな歌声をひびかせようB友情 （体）体つくり運動A希望	（国）古典の世界C伝統 発芽と成長D自然 （体）表現運動B友情	（国）夏の夜C伝統 （体）水泳 A希望C規則	（国）千年の釘にいどむC伝統 （体）水泳 A希望C規則 （体）ボール運動C公正 （家）やってみよう家庭の仕事C家族	（国）日常を十七音でC伝統 （社）水産業のさかんな地域C伝統 （音）和音の美しさを味わおうB友情 （図）くるくる回してB友情	（社）工業生産と工業地域C伝統 （音）曲想を味わおうB友情 （体）マット運動A希望 （体）ボール運動C公正	（国）秋の夕暮れC伝統 （体）ボール運動B友情 （外）クイズ大会をしよう(What's this?)C国際 （理）川と災害D自然	（国）古典の世界C伝統 （音）詩と音楽を味わおうC伝統B友情 ★（体）陸上運動A希望	（体）ボール運動B友情C公正 （図）色を重ねて夢を広げてA個性 （音）日本と世界の音楽に親しもうC伝統	★(国)一まいの写真からA個性A真理 (国)冬の朝C伝統 (算)円をくわしく調べようB友情 (体)表現運動B友情 (体)体つくり運動A希望	（音）心をこめて表現しようB友情

道徳の時間及び各教科等ごとに

月毎に，道徳の時間と各教科等の単元や題材で，どのような道徳の内容を指導するのかが明確になります。

③ 主な体験活動や実践活動と道徳の時間の指導の時期を示した例（小学校第2学年）

学年の道徳教育重点目標

【第２学年】体験活動や学校行事，実践活動と道徳の時間

低学年の重点目標	○　家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。　Ｂ－（７）感謝 ○　働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。 Ｃ－（１２）勤労・公共の精神

主な体験活動や実践活動

道徳の時間

	主な体験活動や実践活動（道徳の内容との関連）	道徳の時間	その他
四月	●挨拶運動　Ｂ－（８）礼儀 誰にでも気持ちのよい挨拶を，心を込めてできるようにする。 ●学校たんけん　Ｃ－（１４）よりよい学校生活 新しく入ってきた１年生に，学校のよさや使い方を教えてあげることを通して，上級生としての自覚をもつ。 ●１年生歓迎遠足　Ｂ－（６）思いやり，親切 ２年生としての自覚をもち，新しく入ってきた１年生を温かい気持ちで迎えようとする。	Ｃ－（１０）規則の尊重 『チャイムがなったんだよ』 （光村図書） Ｃ－（１４）よりよい学校生活 『しょうかいします』 （光村図書） Ａ－（３）節度，節制 『るっぺ　どうしたの』 （わたしたちの道徳）	学級活動 「学校のきまりを知ろう」 学級活動 「生活のきまりを知ろう」
五月	●めざせ野菜名人（生活科）Ｄ－（１８）自然愛護 野菜を育てる活動を通して，野菜も自分たちと同じように生命をもっていることを感じ取るとともに，それらを大切にできるようにする。 ●運動会　Ａ－（５）努力と強い意志 日頃の体育学習の成果を発展させるとともに，集団で規律ある行動ができるようにする。 ●新体力テスト　Ａ－（５）努力と強い意志 運動能力の現状を知り，これからの体力づくりに生かす。	Ｄ－（１８）自然愛護 『あげはちょう』 （光村図書） Ａ－（５）努力と強い意志 『できるようになったよ』 （光村図書） Ａ－（２）正直，誠実 『花びんがわれた』 （大阪書籍）	国語科 「たんぽぽのちえ」 「かんさつ名人になろう」

学校や学年の道徳教育の重点目標も入れておくと、重点目標を意識して指導することができます。また、道徳の時間と体験活動や実践活動との関連を意識した指導を行うことができます。

ここがポイント！

○　道徳教育の全体計画や別葉を作成する際は，道徳教育推進教師一人が作成するのではなく，全教員が作成にかかわるようにしましょう。

（４）道徳科の年間指導計画を作成しよう！

年間指導計画は，道徳科の指導が，**道徳教育の全体計画に基づき，児童生徒の発達の段階に即して計画的，発展的に行われる**ように組織された全学年にわたる年間の指導計画です。具体的には，道徳科において指導しようとする内容について，児童生徒の実態や多様な指導方法等を考慮して，学年段階に応じた主題を構成し，この主題を学年別に年間にわたって適切に位置付け，配列し，学習指導過程等を示しましょう。

＜年間指導計画に明記しておくことが望まれる事柄＞

○各学年の基本方針
○各学年の年間にわたる指導の概要
　ア　指導の時期　　イ　主題名　　ウ　ねらい　　エ　教材　オ　主題構成の理由
　カ　学習指導過程と指導の方法　　キ　他の教育活動等における道徳教育との関連
　ク　その他（校長や教頭などの参加及び教員の協力的な指導の計画，保護者や地域の人々の参加・協力の計画，複数の時間で取り上げる内容項目の場合の全体構想等）

＜道徳科の年間指導計画（例）＞

小学校第５学年　年間指導計画

学年の基本方針	1　身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たせるようにする。 2　教材の中の特定場面や状況を自分との関わりで考え，自分の生き方についての自覚を深めさせる。				
回	1	月	4	週	2
主題名	節度ある生活	内容項目	節度，節制Ａ（３）		
教材名	流行おくれ	出　典	文部省　読み物資料 「主として自分自身に関すること」		
主題構成の理由	生活を振り返り，自ら節度を守り，節制に心掛けることについて，主公を通して考える。				
ねらい	生活習慣の大切さを知り，自分の生活を見直し，節度を守り，節制に心掛けようとする態度を育てる。				
学習指導過程	1　児童の流行に関することについて話し合う。 2　教材「流行おくれ」を読んで話し合う。 （１）みどりと社会科見学の服装についての話をする真由美は，どんな気もちだったか。 （２）母にたしなめられた真由美は，どんなことを考えたか。 （３）わたるに「ゲームの本を返して」と言われた真由美は，どんな気もちだったか。 （４）シーンとして自分の部屋を見回す真由美は，どんなことを思っていたか。 3　節度節制について，心掛けている事柄や実行している事柄の話合いを通して，自分の生活を考える。 4　生活習慣について，教師が日ごろ努力していることの説話を聞く。				
他の教育活動との関連	学習規律の指導（常時），学級活動（２）基本的な生活習慣の形成				
振り返り					
備考					

学年の基本方針
ア　指導の時期（回・月・週）
イ　主題名
内容項目
エ　教材名（出典）
オ　主題構成の理由
ウ　ねらい
カ　学習指導過程
振り返り
キ　他の教育活動との関連

ここがポイント！

○　振り返りや備考欄を設け，授業実施後に気付きを記入しておくと，次年度に向けて，さらに加筆・修正することができ，授業改善につながります。

3　道徳教育に関する校内研修

道徳教育を効果的に進めるためには，全教員が道徳教育及び道徳科の重要性や特質について，理解を深めるとともに学校の道徳教育の基本的な方針を共通理解し，協力して道徳教育を展開するための道徳教育に関する校内研修を充実させることが大切です。

高等学校においては，生徒の発達の段階に対応した指導の工夫が求められることや小・中学校と異なり道徳の時間が設けられていないので，道徳教育の指導に係る共通理解を図る研修の設定などの配慮が必要です。

県内において道徳教育の校内研修の実施については，表１の平成 24 年度道徳教育実施状況調査を見ると小学校で約 95%，中学校で約 84%となっています。こうした研修の機会を生かして，授業研究で力をつけていくことや道徳科の改善・充実につながるように，１回の研修をより一層充実させていくことが大切です。

また，図１の平成 27 年度市町道徳教育推進協議会参加者アンケート結果における「自校の道徳教育に関する研修の充実」に関する項目では，「研修成果を実践につなげやすくする工夫をしている（参加型研修等)」が最も低い数値となっています。

これらのことから，１回１回の研修が自校のニーズを踏まえた内容になっていたり，参加型研修を行ったりするなど，研修で得たものを実践に結び付けていく工夫が必要です。

表１　平成 24 年度道徳教育実施状況調査結果

道徳教育の校内研修の実施	小学校		中学校	
	県	全国	県	全国
１回実施	27.0%	38.1%	38.5%	37.5%
２～３回実施	50.0%	27.7%	38.0%	32.1%
４回以上実施	18.2%	7.9%	7.8%	7.8%
実施していない	4.8%	26.2%	15.6%	22.6%

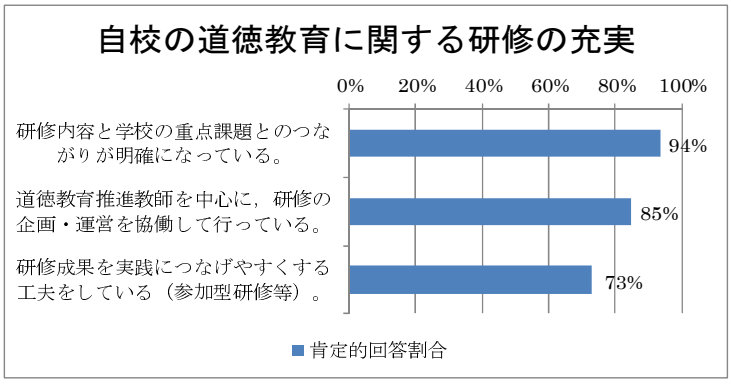


図１　平成 27 年度市町道徳教育推進協議会参加者アンケート結果
（広島市を除く 22 市町）

（１）校内研修の進め方

ア　研修日・時間の設定

年度当初から計画的に校内研修を進めていくためには，前年度末に次年度研修計画を作成する際，道徳教育に関する研修を設定しておくことが大切です。校内研修は，全教員の共通理解を図る場となるので，道徳の理論研修や授業研究を設定しておくと理論と実践が結びつき，指導力の向上にもつながります。研修を設定する際は，おおまかな内容や担当分掌等を明確にしておくことで，研修を進めやすくなります。

〈例〉研修計画（中学校：道徳教育に関するもの）

講師招へいについては，前年度のうちに予定を立て依頼をしておくとスムーズに実施できます。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	○生徒の実態把握 → 重点目標等の共通理解		○授業研究（第三学年） ※講師招へい		○一学期の取組の振り返り → 二学期以降の方向性の確認		○授業研究（第二学年）	○これまでの取組の振り返り → 三学期に向けて		○授業研究（第一学年）	○今年度の取組の振り返り → 次年度に向けて	
担当分掌等	生徒指導部 研究部		研究部 （三学年会）		研究部		研究部 （二学年会）			研究部 （一学年会）	生徒指導部 研究部	

全体計画を基に，どのように道徳教育を進めていくのかを確認していきます。

生徒の実態や取組の成果・課題を整理し，二学期以降の取組につないでいきます。

生徒の実態や取組の成果・課題を基に，重点目標等の見直しをしていきます。

※水曜日の研修時間を予定していますが変更もあります。
※授業研究は５校時を予定しています。

イ　校内研修を進める方法

道徳教育推進教師一人で悩むのではなく，教務主任や研究主任の先生方と連携して進めましょう！

（ア）全教員が役割を分担し，全員で研修を進める方法
（イ）分掌組織によって進める方法
（ウ）道徳教育推進教師が中心となって進める方法
（エ）指導者を招へいして研修を進める方法
（オ）道徳科の授業や道徳的実践の指導などを通して研修を進める方法

ここがポイント！

○　常に子供から出発して，指導に還元できるようにしましょう。
○　目指す子供像を設定し，共通理解を図りましょう。
　※小学校は中学校の，中学校は高等学校の実態を聴くことで，良さや課題を把握でき，子供たちにどんな力をつける必要があるかが明確になります。
○　全教員が意欲的に取り組める内容にしましょう。
○　記録をとり，次への研修に活かすことができるようにしましょう。
○　道徳教育推進教師一人で進めるのではなく，組織的な活動になるようにしましょう。
○　研修後，各自が明日からの授業に何を生かすか，振り返りを大切にしましょう。
　例：「自分化宣言」

10／9校内研修　自分化宣言
私，＿＿＿＿＿＿＿＿は，
＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿
します。

（２）研修内容例

ア　年度当初

道徳教育の全体計画に関する内容

年度当初に全教員で共通理解することで，重点を意識した取組につながります！

〈事例〉研修テーマ「生徒実態を踏まえた重点目標の確認」

〔当日の流れ〕

○　道徳教育推進教師と生徒指導主事が役割分担をし，運営していきます。

1　前年度までの生徒実態（良さや課題）をアンケート等の資料を基に共通理解を図る。

※前年度から勤務している教員に具体的な状況を話してもらうよう事前に依頼しておく。

2　今年度の道徳教育の全体計画を見ながら，「１」を踏まえた目指す生徒像を確認する。

3　道徳教育の重点目標の確認。

4　各学年の道徳教育の重点目標の確認。

5　各教科等で重点目標を意識した取組をしていくことを確認し，学期末に各教科等における生徒の様子（変容：とりわけ重点目標にかかわって）を交流する場を設定していることを伝える。

ここがポイント！

○　道徳教育推進教師が全体を掌握しながら，全教員が主体的に参画できるように，役割分担を行ったり，事前に協力を求めたりして，道徳教育を円滑に推進していきましょう。

○　道徳教育は教育活動全体で行っていくものです。各教員がそれぞれの役割意識をもち，自らの役割を進んで果たせるように，全教員が共通の課題意識をもって進めていきましょう。

○　道徳教育の重点目標（各学年の道徳教育の重点目標）を常に意識できるように，例えば常に見えるところに貼るなど，意識付けしていきましょう。

平成 28 年度高等学校道徳教育推進協議会参加者アンケート結果によると，「自校では，道徳教育に関する研修を実施している」と回答した学校は 34.5%で，約 65%の学校が実施していないと回答しています。各学校の実態や生徒の発達の段階などにふさわしい教育活動を行えるよう，校内研修の充実が求められます。

特に，全教員による一貫性のある道徳教育を推進するために，生徒の実態等を踏まえた「育てたい生徒像」から，道徳教育の重点目標や各学年の指導目標を明確にし，各学校の特色が生かされるよう全体計画の具体化や評価・改善を図る必要があります。（平成 27 年度　広島県教育資料 42 ページ参照）

道徳的価値に迫る読み物教材の活用や，道徳的価値に関する問題解決的な学習・体験的な学習など，多様な指導方法を取り入れた授業を展開するために，計画的・組織的に研修しましょう。

イ　年度途中
道徳教育に関する内容

〈事例〉道徳科における質の高い多様な指導方法について

〔研修のねらい〕

文部科学省の専門家会議で示された，道徳科に求められる質の高い指導方法である「登場人物への自我関与が中心の学習展開」，「問題解決的な学習展開」について学ぶことで，授業改善を図る。

〔当日の流れ〕

〇道徳教育推進教師が中心となり，教務主任や研究主任と連携し，運営していきます。

1　わたしたちの道徳（小学校１・２年）増補版Ｐ１６８・１６９（図２）を教材に，二つの学習指導過程を図３のシートで考える。【個人作業　２０分】

2　個人で考えた学習指導過程をグループで協議する。【グループ協議　３０分】

3　グループで考えた学習指導過程で模擬授業を行う。【全体模擬授業　３０分】

4　模擬授業での気付きを全体で交流する。【全体交流　２０分】

5　道徳教育推進教師がまとめを行う。【まとめ　１０分】

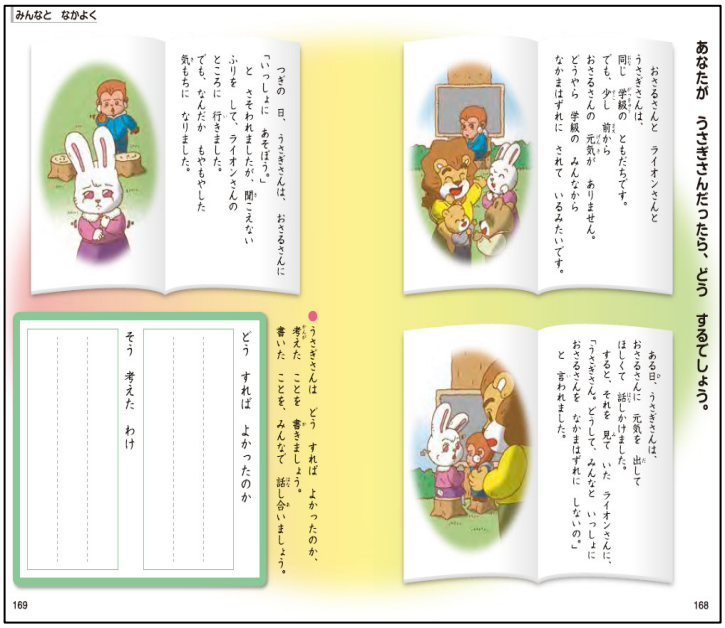


図２　教材：わたしたちの道徳（小学校１・２年）増補版

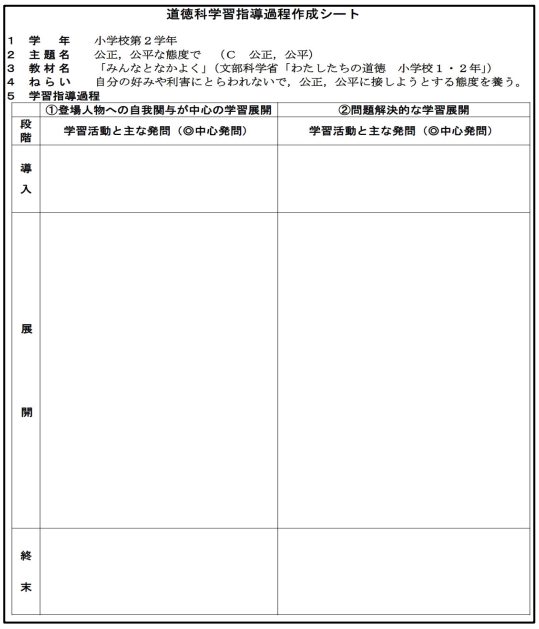


図３　学習指導過程作成シート

ここがポイント！

○　道徳科の授業が児童生徒にとって，深く考える主体的・能動的な学習になるためには，何よりもまず教員が能動的な学習者でなければなりません。質の高い多様な指導方法を目指して，研修することが求められます。

○　道徳科の指導力向上のために全教員が，授業の準備，実施，振り返りの各プロセスを含め，道徳科の学習指導案の作成や授業実践を少なくとも年に１回は担当して授業を公開するなど学校全体での積極的な指導力向上の取組に努めましょう。

ウ　年度途中・年度末

〈事例〉　研修テーマ「道徳科の年間指導計画の評価・改善に向けて」〈例〉

道徳教育の要となる道徳科の授業が，より児童生徒の心に響くものとなるように，年度当初に確認した事項を学期ごとに全教員で振り返る時間を設けることで，授業改善を図っていくことができます。また，年度末に行うことで，次年度につながる評価・改善を行うことができます。

〔当日の流れ〕

○道徳教育推進教師が中心となり，学年主任等と連携し，運営していきます。

1　客観的なデータを基に，児童生徒の実態を交流する。

2　年度当初確認した事項（★）について，各学年会で確認したものをもちより，全体で交流する。

3　質疑応答。

4　共通理解を図り，今後の工夫・改善に活かす。

★【年度当初　確認事項】

①各学年において，道徳科の年間指導計画に基づき，次週の道徳の授業に向けて学習指導過程や「私たちの道徳」の活用の仕方を明示したもの（参照例）で提案する（学年会内輪番制）。

②提案したものは，共有フォルダ「道徳」→「（該当）学年」に保存しておく。

③学習指導過程等を追加変更した際は，朱書きしておく。

④児童生徒のワークシートには，授業についてのアンケート項目を入れておき，児童生徒の受け止めを反映させる。

⑤「成果と課題」には，ねらいにせまる中心発問であったか等について，具体的な児童生徒の反応から記入する（授業後）。

児童生徒自身が自分との関わりで深く考えられるよう，手立てが効果的であったかを見直すことできます。また，具体的な児童生徒の反応から授業を振り返ることにより，発問の構成を再検討するなど，授業改善に生かすことができます！

（参照例）

期日	12月12日（金）			
主題名	自分の言動に責任を	内容項目	自主，自律Ａ（１）	
教材名	ネット将棋	出　　典	「私たちの道徳」（文部科学省）	
ねらい	誠実に実行し，その結果に責任をもとうとする態度を養う。			
学習指導過程	○どう考えて僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろう。 ○心から「負けました。」と言うことができるのは，どのような思いからだろうか。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが，僕が笑えなかったのは，どのようなことを考えているからだろう。			
「私たちの道徳」の活用	学級活動や常時活動において引き続き，p22～27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し，誠実に他者に接することの大切さについて考える。			
他の教育活動等との関連	学級活動（自己理解と生活設計）			
≪授業についての生徒アンケート≫	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
今日の授業はためになったか。	%	%	%	%
自分の思いや考えをもち，振り返ることができた。	%	%	%	%
教材がよかった。	%	%	%	%
成果と課題				

（授業後）

期日	12月12日（金）			
主題名	自分の言動に責任を	内容項目	自主，自律Ａ（１）	
教材名	ネット将棋	出　　典	「私たちの道徳」（文部科学省）	
ねらい	誠実に実行し，その結果に責任をもとうとする態度を養う。			
学習指導過程	○スポーツと将棋の違いについて確認をする。 ○どう考えて僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろう。 ~~○心から「負けました。」と言うことができるのは，どのような思いからだろうか。~~ ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが，僕が笑えなかったのは，どのようなことを考えているからだろう。 ○「私たちの道徳」p25に記入し，交流する。			
「私たちの道徳」の活用	学級活動や常時活動において引き続き，p22～27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し，誠実に他者に接することの大切さについて考える。			
他の教育活動等との関連	学級活動（自己理解と生活設計）			
≪授業についての生徒アンケート≫	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
今日の授業はためになったか。	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%
自分の思いや考えをもち，振り返ることができた。	15.0%	63.3%	21.7%	0.0%
教材がよかった。	23.3%	70.0%	6.7%	0.0%
成果と課題	将棋をさしたことがない生徒がほとんどという実態である。そこで，導入においてスポーツと将棋の写真を提示し，将棋では「負けました。」と言って終わることや電子黒板でネット将棋の映像を提示し，全員が共通にイメージをもてたので，教材を手掛かりに考えることができた。授業アンケートでは，「授業はためになった」，「教材がよかった」の数値は高いが，自分との関わりで十分に深められなかったことから中心発問における予想される生徒の反応からさらに深める発問を考えておくことが必要である。			

４　道徳科の校内研修

道徳科の指導においては，児童生徒一人一人が道徳的価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し，それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。それとともに，児童生徒が自らのよさや成長を実感できるように工夫することが求められます。そのためにも，道徳科の校内研修として，事前研究・授業研究・事後研究を行うなどして，授業改善を図っていくことが大切です。　※（　）は中学校

（１）事前研究をしよう！

ア　教材分析

教材について，ねらいとの関わりで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討します。例えば，人物が登場する読み物教材の場合，教材中の登場人物の行為や心の動き，教材に対する児童生徒の感じ方や考え方などを分析し，どのようにすれば学習意欲を高め，道徳的価値の自覚を深めることができるかなどについて多面的に検討しましょう。

＜教材分析の例＞

１　教材を読み，場面ごとにまとめる。

○　時間経過，場面の変化等で３～４の場面に分ける。

○　各場面を短い言葉でまとめる。

２　場面ごとの登場人物の行為，心の動きなど，キーワードとなる表現を読み取る。

○　会話文や副詞，形容詞などに注意する。

３　登場人物の行為やその奥にある心の動きに含まれている価値を押さえる。

○　時間や場所の変化など，行間にも注意する。

４　主人公の行為，心の動きを支えている価値を考え，本時のねらいにかかわる中心的な価値，関連価値をはっきりさせる。

○　教材の中に含まれている様々な価値を整理する。

５　本時のねらいにせまる中心場面を考える。

○　授業展開の山場になる。

○　ねらいによって中心場面は変わる。（主人公の変容場面，葛藤場面，満足場面など）

６　中心発問を考える。

○　複数の発問を想定し，児童生徒の立場から心の動きを予想する。

○　児童生徒の多様な考え方を引き出せるような発問を考える。（書かれている内容や行動を問うだけの発問にならない）

７　中心発問を生かすための基本発問，補助発問を考える。

○　基本発問は，精選し，時間をかけすぎない。

ここがポイント！

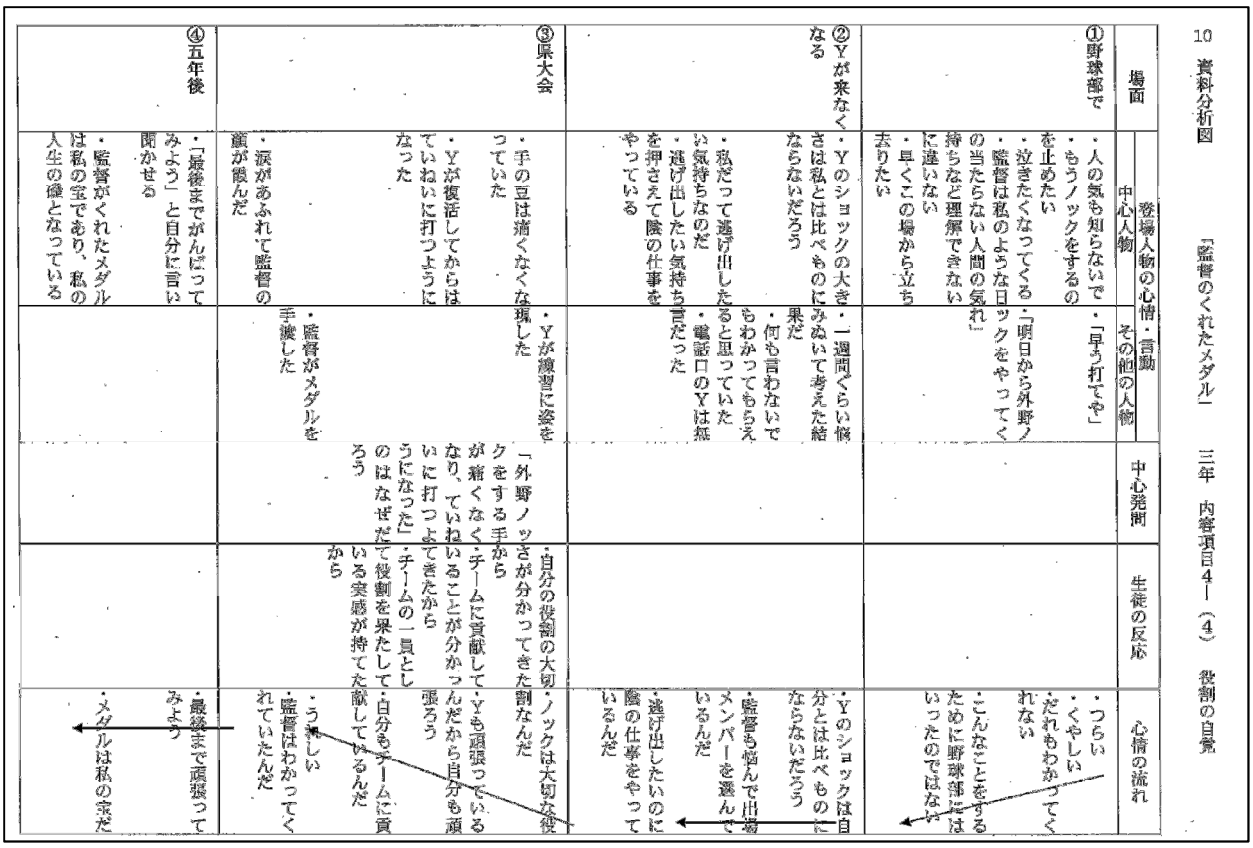
○　授業者の教材分析の深さが，授業を成功へと導きます。

○　児童生徒の実態を踏まえた，心の動きを予想しましょう。（同じ学習指導案でも，学級によって児童生徒の反応が違います。）

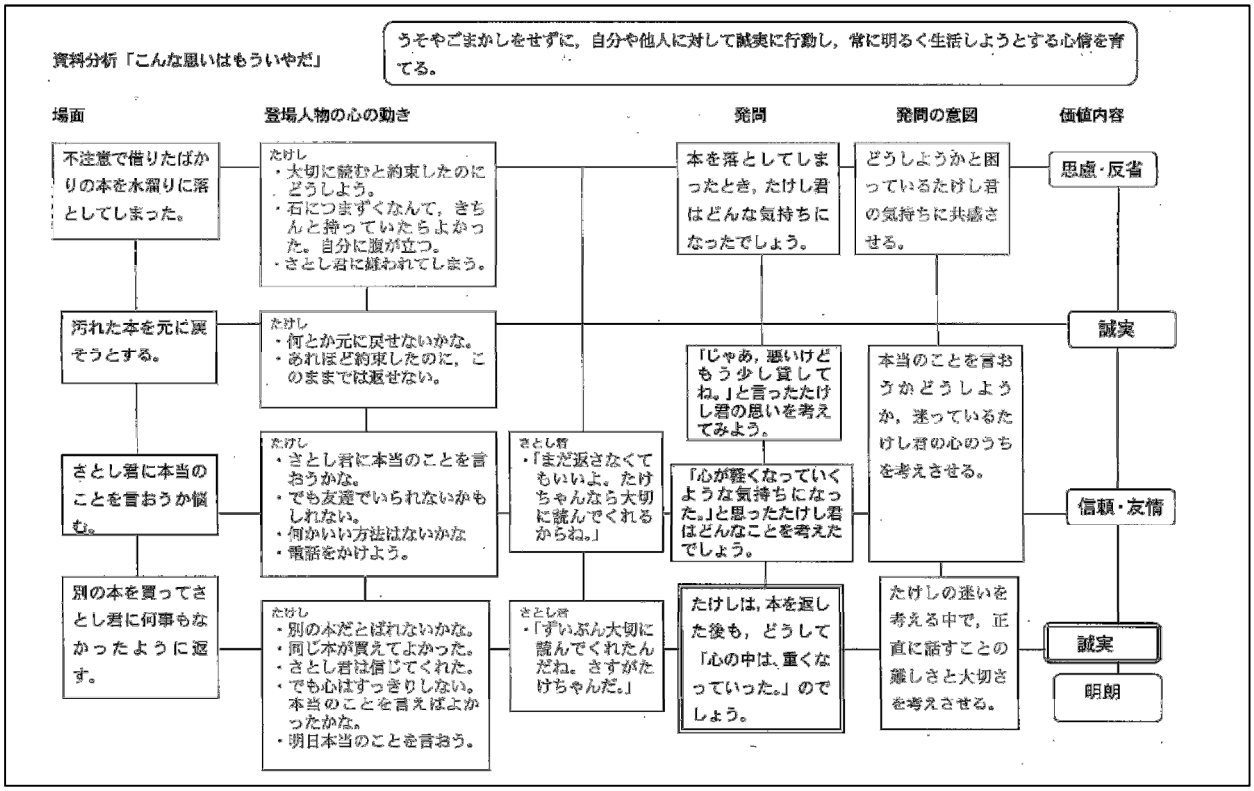
○　教員の視点での分析とともに，児童生徒の視点でも分析しましょう。

＜教材分析表（例）＞

○　心情曲線を生かした分析表



○　発問の意図を明確にした分析表



○　主人公の変容に着目した分析表

教材名（出典名）	夜のくだもの屋　「中学生の道徳１　自分を見つめる」（廣済堂あかつき株式会社）
主人公 登場人物	少女 父親，おばさん，おやじさん
資料の 要約	コンクールに向けて，夜遅くに帰宅する少女。 ある日から，帰宅途中，遅い時間にもかかわらず，くだもの屋に明かりがついていた。 コンクールも終わり，くだもの屋に立ち寄ると，自分が口ずさんでいたハミングが聞こえてくる。 少女は，店主のおばさんが少女のためにあかりをつけてくれていたことを知った。
資料のメッセージ	相手の気持ちに立って，思いやりのある行動をとればあたたかい気持ちになる。
内容項目	２－（２）　　思いやり
変容と きっかけ	Before(道徳的な変容をする前) ・ありがたいと思ってはいるが，伝えられない。 ・自分が頑張っている。（自分本位） After（道徳的な変容をした後） ・素直に感謝できる。 ・自分の知らないところで，多くの人に支えられている。 助言者 ・くだもの屋のあかり ・おばさんの思いやり
中心発問	少女が，「この店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは，当然だった」と思ったのは，なぜだろう。
中心発問に対する予想される生徒の反応	・自分を思ってつけていてくれたあかりだから。 ・おばさんの優しさが込められていたから。 ・見ず知らずの自分への思いやりが込められていたから。 ・見返りを求めない 補）店主はどんな思いで毎日あかりをつけていたのだろう。 ほかにあかりはないだろうか 今までのあなたに，あかりはないですか
基本発問	・少女は，いつも遅くなることについて，どう思っていたのだろう。 ・少女は，くだもの屋にあかりがついていることについて，どう思っていたのだろう。

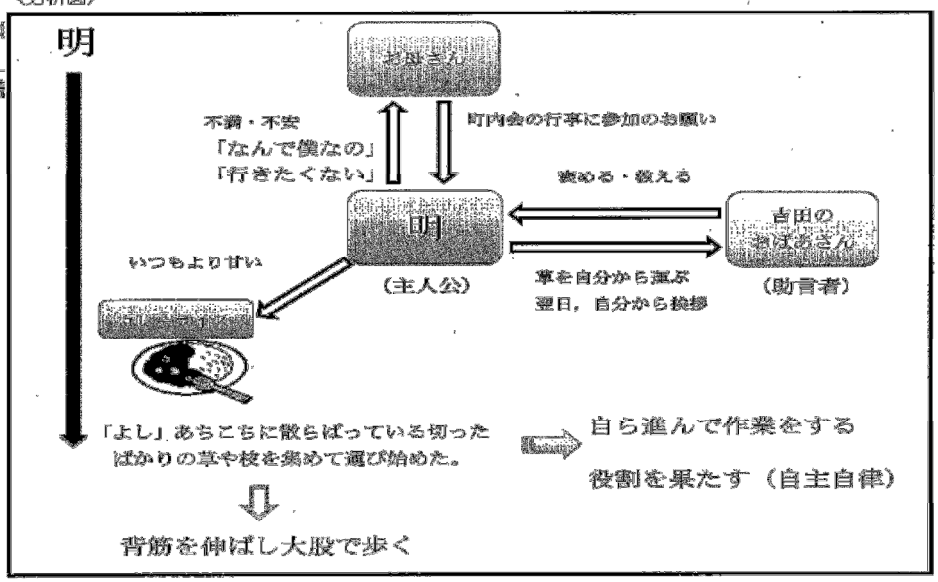
○　登場人物等の関わりを図式化した分析表

「町内会デビュー」資料分析

1　主人公	明
2　変　容	町内会の行事に参加したくない→参加をする→褒められる・気分が高まる→「よし」本気でやろう，やりがいがある，人のために→大人になったような気持ち→大股で学校へ
3　山　場	「よし」　切ったばかりの草や枝を集めて運び始めた
4　助言者	吉田のおばあさん
5　内容項目	１－（３）　自主

※上記５つの視点を持って資料を読

〈分析図〉

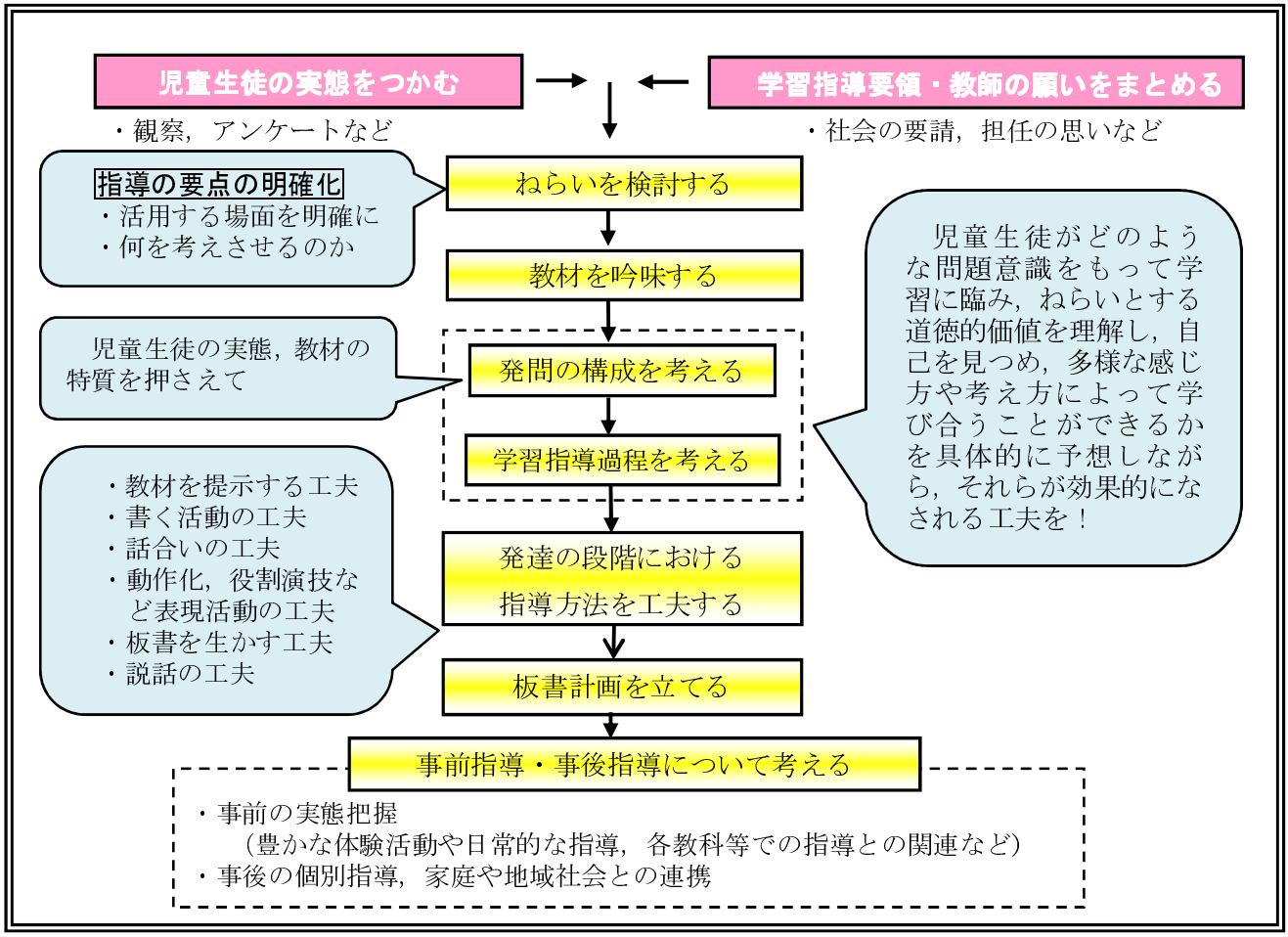


イ　学習指導案の作成

道徳科の学習指導案は，主題のねらいを達成するために，児童生徒がどのように学んでいくのかを十分に考慮し，何を，どのような順序，方法で指導し，評価し，更に指導に生かすのかなど，学習指導の構想を一定の形式に表現したものです。学習指導案の形式に特に決まった基準はありませんが，一般的には次のような事項が取り上げられます。

1　主題名
2　ねらいと教材
3　主題設定の理由（主題観・価値観，児童生徒観，教材観・指導観など）
4　学習指導過程（導入，展開，終末など）
5　その他
　（例えば，他の教育活動などとの関連，評価の観点，教材分析，板書計画，校長や教頭などの参加，など）

学習指導案作成の手順や留意点としては，次のようなことが考えられます。教科等との関連，児童生徒の実態や指導内容，さらに指導者の構想や意図により，様々に工夫しましょう。



ここがポイント！

○　学習指導案は，学校の共通財産ともいうべきものであり，だれが見ても分かるように形式や記述を工夫し，学校として蓄積していくことが大切です。

○　学習指導過程は，一般的には導入，展開，終末の段階を設定しますが，固定化，形式化することなく，弾力的に扱うなどの工夫も必要です。

＜道徳科の学習指導案（例）＞

道徳科学習指導案

指導者　□　□　□　□

1　日　時　　平成　　年　　月　　日（　）　第　　校時
2　学　級　　第○学年　○組　男子○名　女子○名　計○○名
3　主題名　　「勤労の喜び」（Ｃ（１３）勤労）

主題名は，そのまま児童生徒に提示する必要はないものであるから，主題のねらいが捉えやすいように表現を工夫するとともに，できるだけ簡潔な表現にする。

4　ねらい　　「～（主人公の気持ちを考える，行動を考えること）を通して，○○に気付き，○○する道徳的判断力（道徳的心情，道徳的実践意欲と態度）を育てる。」

教材の特質を生かし，道徳的な判断力，心情，実践意欲や態度を育成する視点や主題を児童生徒の実態に結び付けて考え，具体的に記述する。

5　教材名　　「○○○」（出典）＊出典を明らかに

・自作の場合は（自作資料），改作した場合は（一部改作）と明記する。
・私たちの道徳や補助教材の活用があれば付記する。

6　主題設定の理由

○　主題観・価値観（ねらいや指導内容についての教員の捉え方）

・本時に取り上げる内容項目について，学習指導要領解説特別の教科道徳編に即しながら，自分なりの捉え。
・ねらいを設定した理由やその時期に設定した理由，ねらいに込める指導者の願い。
・社会から要請されている今日的課題。　　などを記述する。

○　児童生徒観（児童生徒の学習状況や実態と教員の願い）

・ねらいに関連する児童生徒の実態。（よい点，課題となる点）
・ねらいに関わる実態調査の結果，ねらいの必要性。
・児童生徒に何をどのように期待するのか。　　などを記述する。

○　教材観・指導観（使用する教材の特質や取り上げた意図）

・教材の特質や取り上げた意図。
・児童生徒の実態と関わらせた教材を生かす具体的な活用方法。
・主題観・価値観，児童生徒観を踏まえ，どの様に授業を展開していくか，指導の方策。
・指導体制，学習形態，学習活動の工夫。　などを記述する

7　他の教育活動などとの関わり

本時の学習を生かすための事前や事後の指導の工夫などを記述する。
・各教科等との関連　・体験活動や日常的な指導との関連　・家庭や地域との連携　など

8　学習指導過程

〈P29 を参照〉

9　板書計画

〈P30 を参照〉

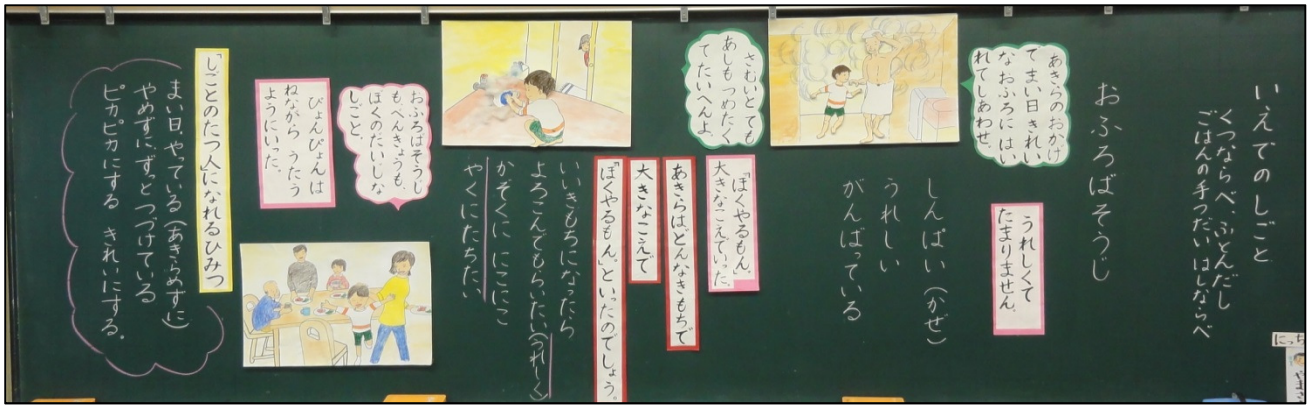
ねらいにかかわって，指導の意図や教材の内容，児童生徒の感じ方や考え方の違いなどを視覚的に整理して生かすための工夫を検討する。

8　学習指導過程

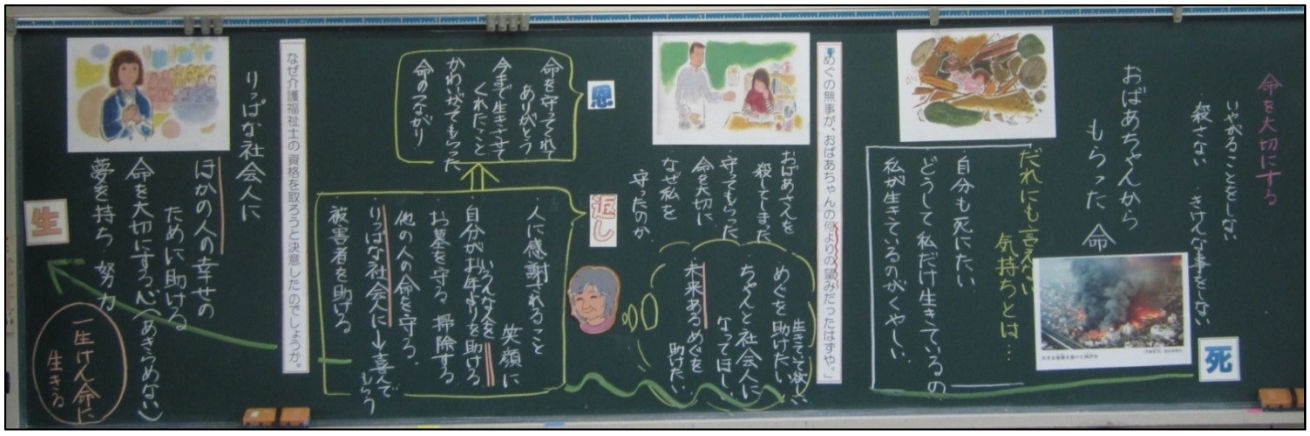
段階	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き （◎中心発問）	指導上の留意点 （☆評価の観点）
導入	1　課題意識を持つ。 （ねらいとする価値に気付く。）	○　これまでに～したことはありませんか。 ・　……。 ・　……。 ○　今日は，～について考えていきましょう。 ＊　見通しを持って主体的に考え，学ぶことができるように工夫する。	○　～を提示し，本時の主題への関心・意欲を高め，課題意識を持たせる。 ・アンケート結果の提示 ・絵や写真，実物の提示　等
展開前段	2　教材「□□」を読んで，話し合う。 (1)～の時の，△△の気持ちを考える。 (2)～の時の，▲▲の気持ちを考える。 (3)△△が，～した時の理由を考える。 (4)△△のしたことについて考える。 （教材や生活体験などを生かしながら，ねらいとする価値を多面的・多角的に捉え，追求・把握する。）	○　△△（主人公）は，どんな気持ちで～したのでしょう。 ・　……。 ・　……。 ○　▲▲（他の登場人物）は，△△のことを，どう思ったでしょう。 ・　……。 ・　……。 ◎　△△は，どんな考えで～したのでしょう。 ・　……。 ・　……。 中心発問が分かるようにする。 ○　△△のしたことをどう思いますか。どうすべきだったのでしょう。 ・　……。 ・　……。 予想される児童生徒の発言を類型化して記述する。 ＊　児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問構成を工夫する。 ＊　他者の考えと比べ自分の考えを深めるような展開となるようにする。 ＊　一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができるよう表現活動や話合い活動を仕組む。	○　場面絵やキーワードを提示することで，教材の内容を把握しやすくする。 ・スライド，紙人形等の活用 ・繰り返し提示，部分提示 ・場面絵の提示　　等 ○　ワークシートを活用することで，自分の考えをまとめさせる。 ○　グループ活動を取り入れ，多様な考え方に触れることで，自分の考えを検討し，本時のねらいへ迫らせる。 ・書く活動 ・役割演技，動作化 ・ネームプレートの活用 ・グループでの話合い　　等 左の各段階の学習活動に対応して，ねらいに迫るための具体的な手立てを記述する。 ※　～するために…する。 ※　…することにより，～させる。 ※　○○な児童生徒には，…する。 ※　○○については，…を伝えて揺さぶる。
展開後段	3　今までの自分を振り返る。 （自分の生活を振り返り，現在の自分の価値観に気付く。）	○　今まで～したことはありませんか。どんな気持ちでしたか。 ・　……。 ・　……。 ＊　体験を通して感じたことや考えたこと，また日常の具体的な事柄を話題にするなど，教材に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止めて，深く自己を見つめることが可能になるよう発問を工夫する。	○　写真を提示し，▲▲体験活動をした時の気持ちを想起することで，自分の生活を振り返らせる。 ・共通体験の想起 ・写真やＶＴＲの提示 ・私たちの道徳 ・書く活動　　等
終末	4　本時のまとめをする。 どんなことを感じて欲しいか，児童生徒の言葉として記述する。 5　私たちの道徳p○を聞く。 （学習の整理・まとめをする。）	○　今日の学習や自分自身を振り返って，考えたことを書きましょう。 児童生徒のまとめ例 私は，・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。 ○　今日の勉強で思ったことを浮かべながら私たちの道徳○ページを聞きましょう。 指導のねらいとの関わりにおいて児童生徒の心の動きの変化などを様々な方法で捉え，指導方法の改善に生かす。	○　自分のこれまでの生活と重ねて考えさせることで，考えの深まりを自覚させ，自分の生き方につなげさせる。 ☆　～することの大切さに気付くことができる。（発言，ワークシート） ○　私たちの道徳を読むことで，本時のねらいとする道徳的価値への実践意欲を高める。 ・教員の説話　・ＧＴの活用 ・ことわざ，格言 ・写真やＶＴＲの提示　等

＜板書例＞

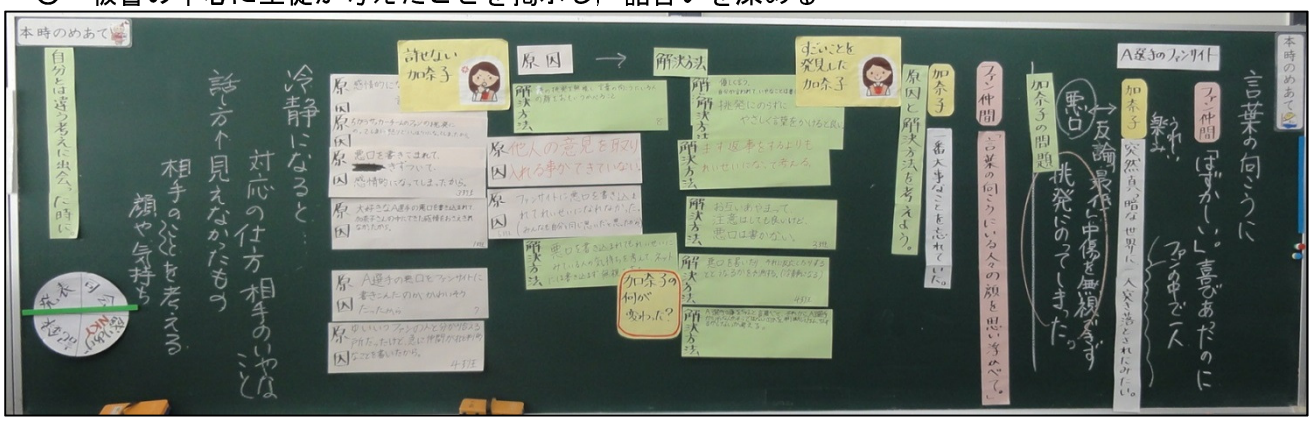
○　場面絵や短冊を活用し，考える視点を明確にする



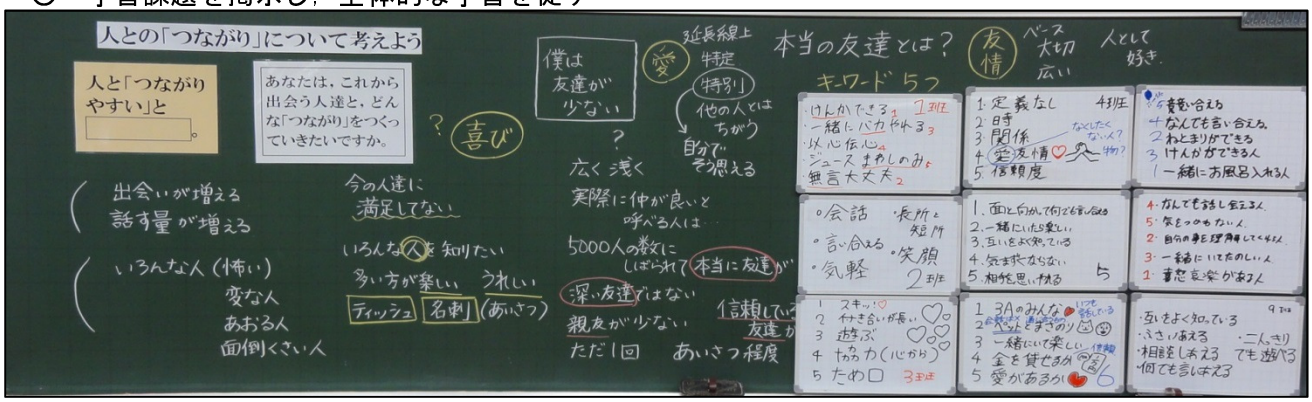
○　心情曲線やキーワードを活用し，考えたことを整理する



○　板書の中心に生徒が考えたことを掲示し，話合いを深める



○　学習課題を掲示し，主体的な学習を促す



ウ　学習指導案の検討

学習指導案の検討を通して，授業者本人が授業に対する意図を明確にするとともに，参観者の授業を参観する視点を明確にすることができます。

＜学習指導案の検討内容＞

○　学習指導要領を正しく理解し，ねらいを設定しているか。
○　学校教育目標，研究主題を踏まえているか。
○　教材分析は適切か。
○　指導方法は効果的か，工夫改善は見られるか。
○　本時のねらい，学習展開，時間配分等は適切か。
○　評価の観点，評価方法等が作成されており，なおかつ適切か。
○　ねらいが十分に達成できていない児童生徒に対する手立てが明確になっているか。　等

ここがポイント！

○　授業者は，検討してほしい課題や助言を求める点を明確にしておきましょう。
○　授業者は，検討する学習指導案を事前に配付し，特に検討を要する点については，項目をあげて分かりやすくしておきましょう。
○　研究主任は，場合によっては，会議室等に集まらなくても，参加者の意見が集約できるような方法を考えましょう。（例：回覧，メールなど）
○　参加者は，事前に資料とねらいから中心発問を考えるなど課題をもってのぞみましょう。

エ　模擬授業

学習指導案の改善点をさぐる方法の一つとして，模擬授業があります。模擬授業を行うことで，事前に学習指導案の問題点を具体的に把握し，課題を修正することによってより質の高い授業につなげることができます。また，模擬授業により，事後の研究協議会の柱を明らかにすることができ，協議内容の深まりにもつなげることができます。

＜模擬授業の方法例＞

○　授業者が，検討会参加者を児童生徒と見立てて授業を行う。
○　検討会参加者の一人が授業者となり，他の参加者を児童生徒と見立てて授業を行う。

＜模擬授業を取り入れた研究授業までの流れ例＞

授業者の意図の共有
（学習指導案検討）

学習指導案の検討などを通して，授業者の指導意図を共有します。

模擬授業

学習指導案や略案を基にした模擬授業を実施し，課題等を把握します。

改善策の検討

課題を踏まえ，発問や指導の手立て，板書計画等の改善策を出し合います。

他学級での授業

学年が複数学級の場合は，他の学級で授業を行い，児童生徒の反応を確認します。

研究授業

１時間のすべてを模擬授業するのではなく，展開部分の発問構成や指導の手立てなど，部分的な実施も考えられます。

模擬授業の実施により，「授業者だけの授業」という意識から「みんなの授業」という意識をもつことができます。

ここがポイント！

○　児童生徒役の教員は，想定される反応を考えながら，児童生徒になりきって行いましょう。
○　第三者の立場で，客観的に参加する役も必要です。
○　模擬授業後に，ねらいや発問等について協議を行い，改善策を考えましょう。

（２）授業研究をしよう！

授業を参観することで，児童生徒の様子や学級全体の雰囲気を共有した上で研究を深めることができます。授業研究を通して，教員の指導力の向上を図るとともに，授業改善に結び付けていくことが大切です。

＜授業者の留意点＞

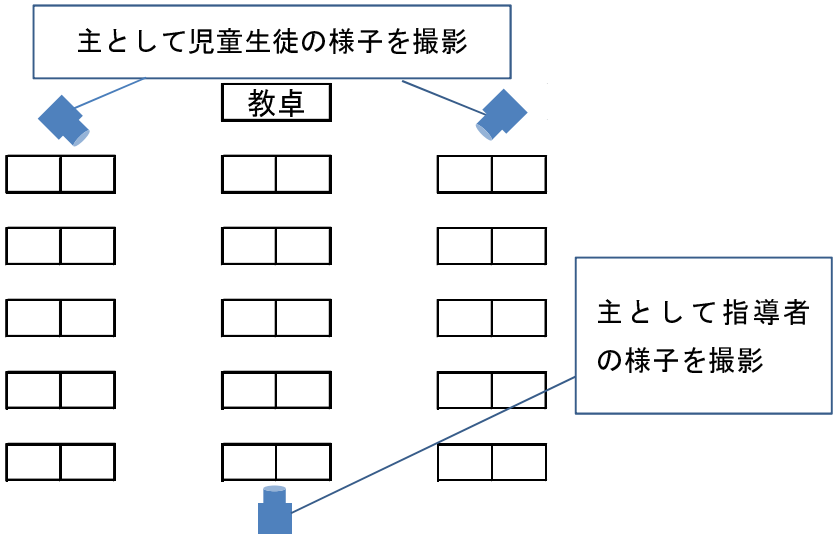
○　計画した授業内容を念頭に置きながら，児童生徒の反応に対して柔軟に授業を展開しましょう。
○　個に応じた指導となるよう，児童生徒の意見や質問，つぶやきを大切にし，授業展開に生かしましょう。
○　授業を振り返り，成果と課題を明確にしておきましょう。

＜参観者の留意点＞

○　事前に示された研究協議の視点を踏まえて授業を観察しましょう。
○　役割を分担して必要な記録を取りましょう。
例：授業記録，ビデオ，板書，教員の発問・声掛け，児童生徒の反応等

ア　ビデオ記録の活用

教室の後方に固定カメラを１台設置して，授業全体の様子を撮影するだけでなく，前方からの固定カメラや移動カメラで撮影することで，児童生徒の様子や表情をとらえることができます。



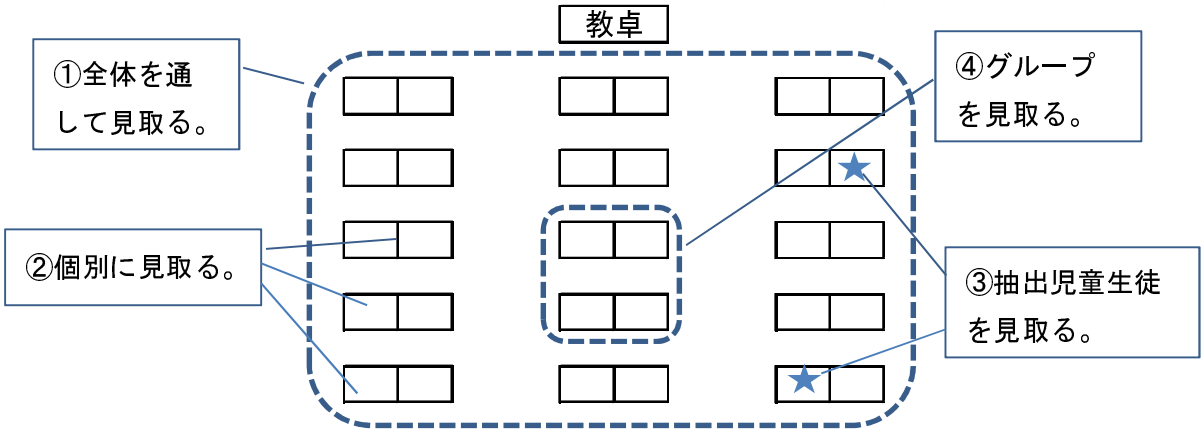
＜ビデオ記録活用の利点＞

○　授業のねらい等を具体的に説明したい場面で，ビデオを停止させて説明ができるので，授業者の意図が伝わりやすいです。
○　何度でも再生できるので，授業分析を深めることができます。
○　限定した場面を全員で見ることにより，協議が焦点化できます。
○　授業中には気付かなかったことや見過ごしたことなど，多角的に検討できます。
○　協議会を受けて，授業者が再度視聴することにより，振り返りを深めることができます。

イ　授業記録用紙の活用

授業記録用紙は，あらかじめ用意された項目にしたがって，指導者と児童生徒の関わりや児童生徒の学びの様子を時系列に記録し，変化を見取ることができます。全体の印象と個々の事実との関係についてしっかり協議していくことが，検証の場面で大切になります。

＜参観者による児童生徒の見取の例＞

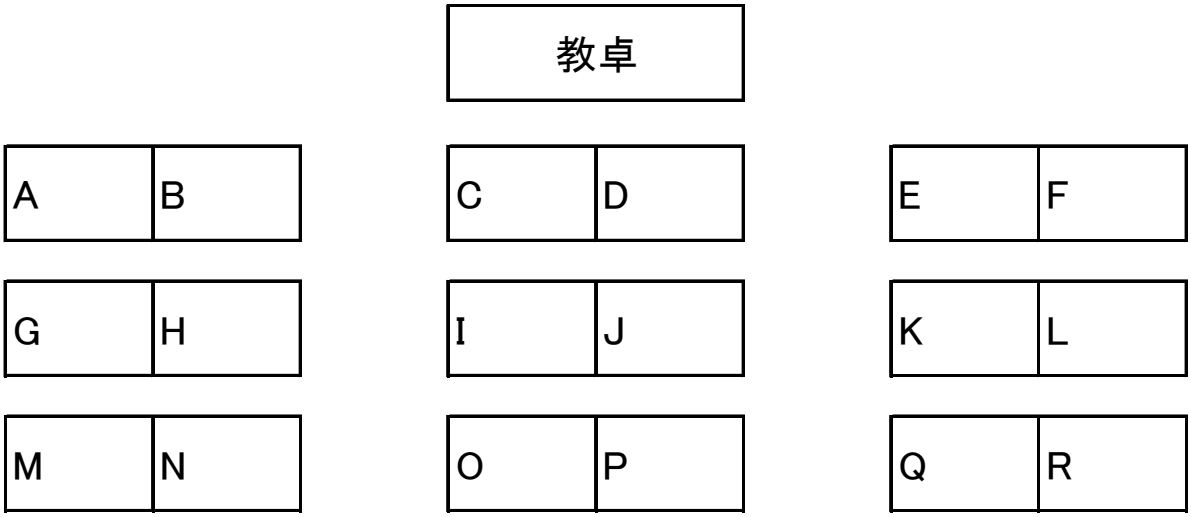


＜記録用紙の活用例＞

①　全体を通して見取る例

時刻	指導者の発問・指示・板書・支援等の様子	児童生徒の発言・活動等の様子	その他

②　個別に見取る例（座席表の活用）



③　抽出した児童生徒を見取る例

○　全体を見ながら抽出した児童生徒を見取る

時刻	指導者・児童生徒の発言	観察対象の児童生徒	
		A	B

○　抽出した児童生徒を集中的に見取る

時刻	観察場面	指導者の関わり	抽出児童生徒の姿	観察者の所見

④　グループを見取る例

担当（１）班

A児	B児	班員との関わり
C児	D児	

（３）事後研究をしよう！

ア　研究協議会

研究協議会においては，授業の結果をもとに協議し，授業の成果や課題を明確にする過程を通して，参加者全員の授業の質を高めていくことが大切です。

＜研究協議会を充実させるためのポイント＞

その１　「研究協議の視点」の明確化

研究協議の視点が全員に明確になるようにしましょう。また，授業参観では，その視点に基づいて協議できるようにするために，研究協議の視点を踏まえ，参観しておきましょう。

その２　授業者からの振り返り

授業者からの授業の振り返りや課題の提示は，具体的かつ明確にしましょう。授業者は，研究協議の視点に即して課題等を具体的に述べましょう。

その３　客観的な情報の必要性

ビデオによる記録，発問記録，板書記録等，授業についての客観的な記録をもとに協議しましょう。また，研修部は，研究協議の視点にかかわる研修資料を準備しましょう。

その４　研究協議会への主体的，積極的な参加の必要性

研究協議会の参加者は事実に基づいた具体的な発言を行いましょう。抽象的な発言に終始しては，効果があがりません。また，参加者は協議を深めることにおいて同じ立場に立っていることを自覚し，積極的に発言するとともに，課題と思われる点について授業者や他の参加者に遠慮することなく発言しましょう。

その５　司会者の役割の重要性

研究協議を深めるためには，司会者の役割が重要です。司会者は，問題を整理し，協議の視点に沿って進行するよう工夫しましょう。指導・助言者を招聘した場合には，指導・助言の時間を適切に取ることができるよう時間配分に留意しましょう。

その６　「改善計画」の明確化

研究協議会のまとめでは，次の授業提案に向けての課題，改善すべき点等，次へのステップは何かを明確にし，確認し合いましょう。

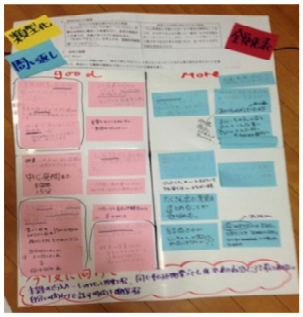
その７　中学校や高等学校の研究協議会の活性化

担当教科が違うからこそ，授業を参観する視点も多様化し，協議が深まるというメリットがあります。また，道徳では，指導方法の工夫改善等，教科が違っていても共通の協議の視点も設定できるという良さを生かしましょう。

＜研究協議会（９０分）の進行例＞

時間	内容	詳細	ポイント
３分	進め方の説明	研究協議の目的，流れ，時間設定等の説明をする。	事前に研究協議の視点や進行表を配布し，共通理解を図っておく。
５分	授業意図等の説明および質疑	授業者が次のような視点で説明する。 ・配慮したこと ・授業の成果と課題 ・意見や助言をもらいたいこと 参加者からの質問を受ける。	授業者は，授業後に，説明することをまとめておく。 参加者は，意見は出さず，質問のみ行う。
30～40 分	グループ協議	グループで授業を分析し，成果と課題，改善策を明確にする。	付箋紙等を活用し，ワークシートにまとめる。 課題についての改善策を考える。
10～15 分	全体発表	各グループの代表者が成果や課題，改善策を簡潔に発表する。	他のグループと重複する内容は割愛する。
10 分	改善策等の共有化	グループ発表で出された意見を整理し，課題を改善するために取組むことを共有化する。	研究主任や進行役が，成果と課題をまとめ今後の方向性を共有化する。 いつまでに何を行うか明確にする。
15～20 分	指導助言	外部講師や管理職から指導助言を受ける。	外部講師がいない場合は，管理職等がまとめを行う。
10 分	振り返り	各自のこれまでの実践を振り返り，自分の授業改善を考える。	明日からの授業実践につなげるために，一文発表や一文宣言を行う。
協議後	授業者へのメッセージ	授業者へメッセージを送る。	授業者が研究授業をやって良かったと思えるように，授業からの学び等，肯定的なメッセージや意見を送る。

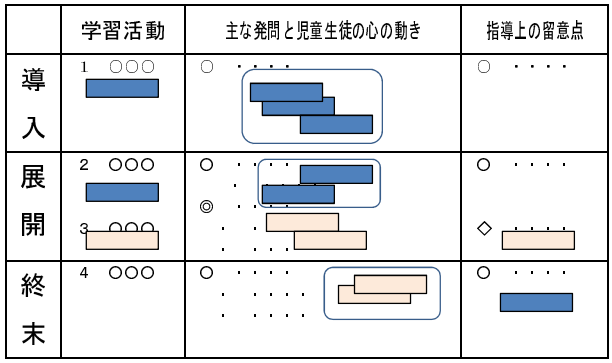
＜効果的な研究協議会例＞

グループ協議	ワークシートへのまとめ	全体発表	振り返り
			
付箋を貼付けながら成果や課題をグループで整理する。	成果と課題を明確にしたワークシートを作成する。	全体で意見交流を行い，改善策を共有化する。	協議を受けて，授業者が「明日からの取組」を発表する。

イ　ワークショップ型の研究協議

参加者全員が主体的に参加し，成果や課題を明確にして，改善策の共通理解を図りながら協議を深めていくために，ワークショップを取り入れた研究協議を実施していくことが効果的です。協議の目的に応じて，ワークシートを工夫し，協議の効率化を図りましょう。

①　指導案拡大法（学習指導案に沿って分析できるワークシート）



【特徴】

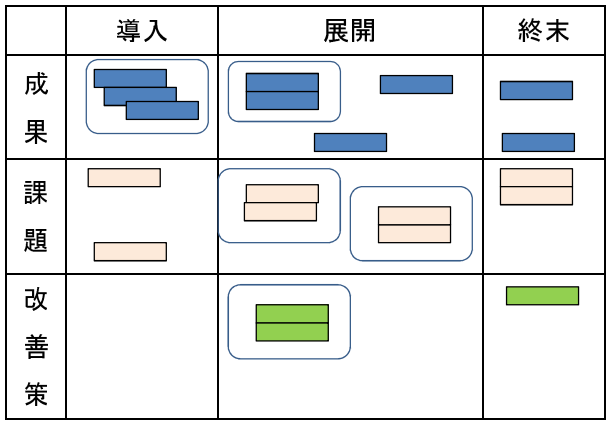
○　拡大学習指導案の学習指導過程に，直接付箋紙を貼付ける。

○　学習指導案と実際の授業を対比しながら進めることができる。

【留意点】

○　意見が出やすい反面，焦点化するのに時間がかかる，視点を明確にして記入すると効率的である。

②　時系列法（指導と児童生徒の様子を時系列で分析できるワークシート）



【特徴】

○　指導の過程に即しているので，初めてでも付箋紙を貼付けやすい。

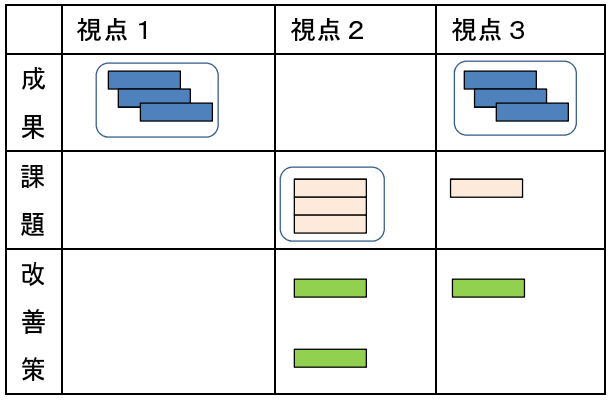
○　成果と課題に分けて貼付けるので，成果や課題が明確になる。

○　改善すべき点，次へのステップが何かを明確にすることができる。

【留意点】

○　体験活動など，他の教育活動との関連まで視点が広がりにくいことに留意する必要がある。

③　マトリクス法（協議の視点に沿って分析できるワークシート）



【特徴】

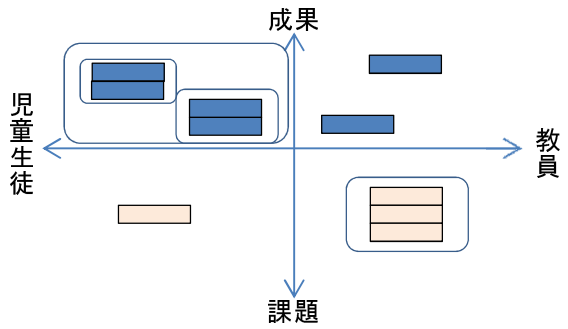
○　事前に協議の視点を定めておき，その視点について成果と課題，改善策が協議できる。

○　全員で改善策まで考えるので共有化が図られ，今後の実践につながりやすい。

【留意点】

○　同じ内容に対して評価が分かれる場合，付箋紙の置き方を工夫すると効率的である。

④　座標軸法（児童生徒と教員の視点から分析できるワークシート）



【特徴】

○　授業の全体を捉えたい場合に有効である。

○　横軸は，児童生徒の姿と教員の指導，あるいは，協議の視点などを置き，焦点化した分析ができる。

【留意点】

○　改善策を考える場合には，新たに大きな付箋を貼付けるなど工夫する必要がある。

これらのシートを活用することで，授業を視覚的に構造化して分析することができます。

また，授業の欠点を指摘するのではなく，授業者の立場に立って授業を改善するにはどうすることが望ましいか，お互いに意見を出し合いましょう。

ここがポイント！

○　研究協議では，発表しやすい雰囲気づくりをしましょう。

○　ワークシートを効果的に活用しましょう。

○　今後の方向性を明確にし，全員が共通認識をもって取り組めるようにしましょう。

○　研究協議のまとめを発行しましょう。

ウ　授業評価

授業評価表を作成し，利用することにより，授業全体をバランスよく評価でき，問題点を明らかにすることができます。

ここがポイント！

○　評価項目に，授業者が希望する視点なども入れてみましょう。

○　授業者も自己評価を行い，参観者の評価と比べることで，より具体的な授業改善に生かしましょう。

○　研究内容などを踏まえ，評価項目を設定し，研究協議の焦点を絞り，協議を活性化しましょう。

＜授業評価表例＞

研究主題をもとに，授業評価の観点を吟味して，評価表を作成しましょう。

研究授業参観の視点

小・中（　　）年　道徳の時間　　月　　日　　記入者（　　）

1．あてはまる数字に○をしてください。	とても	まあまあ	あまり	まったく
資料について				
①児童生徒の心に響く資料だった。	4	3	2	1
発問について				
②中心発問はねらいに迫るものだった。	4	3	2	1
③中心発問で活発な議論を呼ぶことができた。	4	3	2	1
④補助発問は児童生徒の心を揺さぶることができていた。	4	3	2	1
授業展開について				
⑤本時の内容に適した導入だった。	4	3	2	1
⑥思考の流れやつながりが分かる構造的な板書だった。	4	3	2	1
⑦机間指導が目的を持って機能していた。	4	3	2	1
⑧児童生徒の発表は効果的なタイミングで行われていた。	4	3	2	1
⑨終末は，価値を心にとどめるために適切なものであった。	4	3	2	1
⑩ＴＴの授業は効果的なものだった。	4	3	2	1
⑪本時のねらいを達成することができた。	4	3	2	1
自分とのかかわり				
⑫自分を見つめさせる手だてがあった。	4	3	2	1
友達とのかかわり				
⑬自分の思いを伝えることができていた。				
⑭相手の思いを聞いて，考えを深めることができていた。				

2．授業について，意見，感想，励まし，改善策（アドバイ

授業参観シート

平成２８年　７月　４日

３年　資料名：一りん車にのれた

人間らしいよさを心にきざむ道徳の時間の指導になるために

（４できている　３概ねできている　２あまりできていない　１できていない）		4	3	2	1
考えさせる授業になっていたか	ねらいの設定は適切だったか				
	自分との関わりで道徳的価値が捉えられる発問構成だったか				
	補助発問や切り返しが適切であったか				
	友達の考えと関わらせながら自分の考えを伝えることができていたか				
特別支援教育の観点からのアプローチ	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫が有効であったか				

	考えさせる授業	特別支援教育の観点からのアプローチ
改善策		
感想		

成果や課題だけではなく，改善策も考えましょう。
また，感想や励ましの言葉なども添えるようにしましょう。

Action 改善のために

５　道徳教育改善・充実のための情報発信

研究協議会で出された改善策を日々の授業や次の授業研究の計画に取り入れ，生かしていくことが大切です。また，校外の道徳教育に関する研修会等で得たことは，個人一人のものとせず，積極的に情報発信することで，学校全体の道徳教育の充実を図ることにつながります。

〈事例１〉　授業研究後の研究だより

授業研究後に，成果と課題を整理し，ポイントを絞って全員が共通して取り組むことを提示すると効果的です！

すすんで　きたえ　みがき　のびる

研究だより

平成２８年６月２３日
NO. ３

第３回授業研究（５・６年生）が終わりました

６月１７日島恒生教授を招聘し，第３回授業研究を行いました。金本先生・山下先生ありがとうございました。
成果と課題から今後本校として取組を進めていく内容をまとめてみました。

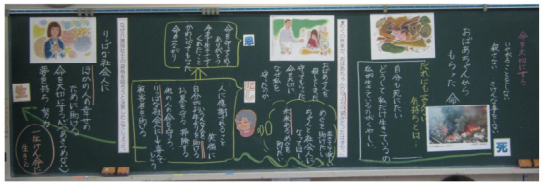
〈５年生〉　（%）

（４できている　３概ねできている　２あまりできていない　１できていない）		４	３	２	１
考えさせる授業になっていたか	ねらいの設定は適切だったか	100	0	0	0
	自分との関わりで道徳的価値が捉えられる発問構成だったか	100	0	0	0
	補助発問や切り返しが適切であったか	88	12	0	0
	友達の考えと関わらせながら自分の考えを伝えることができていたか	75	25	0	0
特別支援教育の観点からのアプローチ	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫が有効であったか	88	12	0	0

	研究協議	島教授より
課題→改善策	・よい発言をオーバーにほめて価値づけのせていくと，発言の質が上がっていくと思う。 ・指導者の影になって黒板が見えない児童がいた。席や貼物の位置に配慮。 ・適切な切り返し（イチローにとっての全力ともっとうまくの結びつきに違和感があった） ・「全力」を言い替える切り返し発問を児童の出た言葉から切り返しかすればよかった。 ・補助発問で「休むってイチローにとってど	・「イチローにとっての全力」について考えているとき，もっと児童に任せてもよかった。（さらに上をとってどういうことかの場面児童が発見した場面だったから） ・「イチローにとっての全力」は中心発問で考えたもので，「イチローにとっての全力」と切り返したところは「全力」について考えた場面であった。（板書には「全力」の方がいい） ・ＤＶＤ見せたとき，板書も見せながら「ど

明日からの授業に生かせる工夫を行いましょう！

授業の様子を写真等で整理して，発信するのも効果的です！



校内研修
５年生　～ 平成２８年９月２９日（木）～

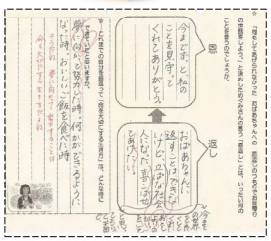
○ 主題名　かけがえのない命　３－（１）生命尊重　【Ｄ－１９　生命の尊さ】

○ ねらい　亡くなったおばあちゃんに恩を返すとはどういうことかを考えることを通して，かけがえのない命を大切にし，自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

○ 資料名　「おばあちゃんからもらった命」　（出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」）

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き【◎中心的な発問】	指導上の留意点【※評価の観点（方法）】
導入	１ 問題の意識化 今まで様々な命に関する学習をしてきたことを想起させる。	○ ５年生の学習では，たくさん命に関わる勉強をしてきましたね。 ・理科（メダカ）・道徳（命がないと始まらん） ・総合的な学習の時間（高齢者・野活）	・今までに学習した内容とその振り返りを紹介することで，本時の学習問題に導いていく。
展開	２ 学習問題の明確化 本時の学習問題を考える。	○ 命に関するアンケートでは，全員が「自分やほかの人などの命を大切にしている」と答えていましたが，どうすることが「命を大切にする」ということになるのでしょうか。 ・友達のいやがることをしない。	
	３ 問題の追求 資料を読んで，めぐみさんの気持ちとその変容について考える。	○ 震災直後のめぐみさんは，だれにも言えないどんな気持ちをノートに書いたのでしょう？ ・わたしだけ生きていくことはできない。 ◎ なぜ，めぐみさんは介護福祉士になろうと決意したのでしょう。 （補）めぐみさんにとっての「恩返し」とは，どうすることでしょう。 ・おばあちゃんは死んでしまったけど，代わりにお年寄りのお世話がしたいと思ったから。	・資料の１場面を聞いて，めぐみさんの辛い気持ちを確認し共感させる。 ・資料の３場面を聞いて，めぐみさんの気持ち・決意について，考えさせる。
終末	４ 問題に対する自己の納得 「命を大切にする」ということについて自分なりに納得をする。	○ 「命を大切にする」とは，どういうことをすることだと思いますか。 ・一生懸命生きる。	※命を大切にすること，一生懸命生きることの素晴らしさについて気づくことができたか。（記述，発言）
	５ まとめ 毎日の学校生活の中で，児童の輝いている場面を紹介し「命を大切にする」ことのまとめをする。	○ 一生懸命がんばったことや，今がんばっていることはどんなことですか。 ・運動会の練習	※自分の生活の中での「命の大切さ」について考え，がんばって生きていこうという心情をもつことができたか。（記述，発言）

おばあちゃんに守ってもらった命を大切にしたい。



おばあちゃんへの恩返しとは・・・？

【子どもの姿】
★感情曲線を用いたことで，主人公の気持ちの高まりを視覚的に感じていた。
★意見を活発に出し，学習内容を道徳ことばにまとめていた。
★夢に向かって一生懸命生きることが，「命を大切にする」ということについて納得できていた。

【成果と課題】
○児童一人一人が，主人公の気持ちの変化について考えていくことができた。
○児童の発言やワークシートの内容から，「命を大切にする」ことの道徳的価値の高まりが感じられた。
●児童の考えをより深いものにするために，中心発問と補助発問の整合性を図る。
●主体的な学びの場にするために，児童同士のつながりをもたせる発問を考える。

〈事例２〉　道徳教育推進だより（教員向け）

道徳教育推進教師が国や県の動向を踏まえ，定期的に情報発信していきましょう！

すすんで　きたえ　みがき　のびる

道徳だより

平成２８年６月２４日
NO. ８

道徳教育について

今年度の学級懇談会において，道徳教育について保護者と話をしてください。
懇談会がもてるのは６月，９月，１月の予定ですので計画的にお願いします。

内容

① 道徳の時間の様子の紹介
例えば・・・
・学級通信や学校だよりで紹介したことを再度紹介する。
・道徳プログラムで道徳の時間と他教科等と関連させていることを紹介する。
・当日授業した学年は，当日の授業について説明しながら普段の道徳の時間を紹介する。

道徳で学習したことを他教科で生かしたり，他教科で学習したことを道徳の時間で振り返らせたりして，道徳の時間と他教科を結びつけ，お話だけに終わることなく，自分のこととして考え，道徳的実践へと生かしていけるようにしていることを伝えてください。

↓そこで

② 家庭での様子を少し聞いてみてください
例えば・・・
・道徳の時間の学習が生かされているようなことがありますか？
・道徳の時間の話を子どもさんがしたりすることがありますか？など

③ 「わたしたちの道徳」の活用について，保護者の感想を聞いてみてください
例えば・・・
昨年も協力していただいたように今年も家族で話すきっかけや家族の方にほめてもらって頑張ってよかったなと思えるようにと考え夏休みや冬休みの宿題に出させていただきます。今年もご協力お願いします。
感想も書いていただきましたが，いかかでしたか？（よかった点や負担など）

時間がない中で聞いていただくようになるので，②③については，一人でも二人でもいいですのでご協力お願いします。

情報提供だけではなく，各学級で取り組んでもらいたいことなどを発信し，組織的な取組にしましょう！

研究だより③　平成 28 年 9 月 28 日

前期のまとめ

成果 …体験活動を関連づけた道徳の時間の指導における成果

【指導の足跡】

５月　内容項目「役割と責任の自覚」「希望・勇気・強い意志」
保・小・中合同運動会 → ○小・中全学級で道徳の時間

９月　内容項目「思いやり・親切」
しわいマラソンボランティア活動 → ○小・中全学級で道徳の時間

【子どもの変化に見る肯定的な変容】

（運動会・道徳の時間の前）
けがのないように楽しくすることと全力で最後まであきらめずに頑張りたいと思っています。

（運動会・道徳の時間の後）
初の中学生になっての運動会だったのでうまく小学生をリードしようと思って頑張りました。来年は，今の小学６年生が入ってきて，僕たちがそれをリードしないといけないので楽しみです。

「役割と責任の自覚」が表れている。

２つの課題

① 語り合いを充実させる指導に工夫が必要である。

②児童生徒の道徳的価値を深める発問に指導が必要である。

課題を改善するために

・どの教科でも補助発問を充実させましょう。
・めざす語り合いの姿を意識しましょう。

小学２年生の語り合い

課題を改善するために

まずは中心発問を
・自分の経験と結びつけることができる
・対立が見える，児童生徒を葛藤させる
・主題をきちんと捉えて，何を考えさせるのか明確にする
・多様な考えを引き出せる
発問にしましょう。

小学５・６年生の語り合い

吹き出しや図，イラストを使用し，伝えたいことをコンパクトにまとめるのも効果的です！

〈事例３〉　研修（校外）報告だより

学校を代表して，道徳教育に関する様々な研修に参加した場合は，研修で学んだ内容を自分一人のもとで終わらせず，報告だより等でしっかりと還元しましょう。

研修の内容を自校の取組に生かしていけるように分かりやすく伝えましょう！

授業研究の際には，授業後の板書を記録しておくと児童生徒の反応や思考の流れが分かりやすく伝えられます！

研修報告

平成２６年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業における教材作成委員会
講演　島恒生先生（畿央大学　教授）の講話から学んだこと

○「道徳の時間」について
- 教師と子どもが，いっしょに考える時間。
- 生活，体験と関連させ，言葉で気付かせる時間。
- 発見があること。心の中にあるダイヤモンドに子ども自身が気付く時間であること（自分の中の発見）。
- 子どもの中にあるすぐれたもの（リソース・資源）を引っ張り出せるか。
- 「この子，こんな考え方をするんだなあ」と児童生徒理解が進む。

・「伝える授業」ではなく，「考えさせる授業」を創っていくことで，他教科等の授業も変わっていく。
・子どもたちが，「えっ？」と考え込み，思わず隣の子どもにこそこそっと話しかけるような発問によって，これまでと違う考え方や感じ方と出会える。

- 少数意見を拾っていくことが大切。
- ワイワイガヤガヤが大切。

そのためには，発問（特に中心発問）が勝負!!
資料に答えのない発問を考えよう!!

PDCA
改善・充実のために

○道徳の授業づくりの充実に向けて，取り入れていきたいこと
（来年度を見通した取組のために）
- 学校の財産として整理と保管，活用ができるシステムづくりをする。

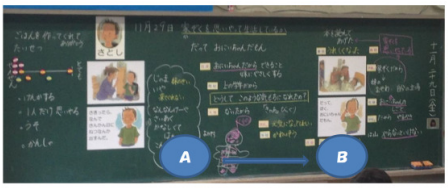
⇩

「クチコミ」を年間計画に入れていく。

方法
1　年間計画に「クチコミ」欄を入れる。
2　授業後，すぐに気付いたポイント（「○○がよかった」「△△はよくない」等）を書き込む。

山口大学教育学部　付属山口小学校　研究会「学びの実感のある授業をつくる」に参加して
平成 25 年 11 月 29 日

本研究会では，２年生の道徳の時間（「だっておにいちゃんだもん」）を参観，授業別協議会へ参加しました。（その他，研究発表，教科調査官らによる教育対談もありました。）
今回は２年生道徳を中心に報告します。

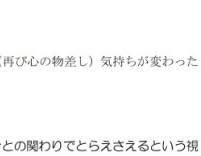


授業参観なのにお母さんは来ない。怒って帰宅したさとしに母は妹が熱を出したことを告げる。「妹を見ていてね。」と言われたさとし。無心に兄を頼り，甘えてくる妹の面倒を見ているうちに心情が変化する。帰ってきてその姿を褒められたさとしは「だっておにいちゃんだもん」と誇らしげに宣言する。
「だっておにいちゃんだもん」
（東京書籍２年　）
４－（３）家族愛

１．道徳部の取組みから
テーマ「ねらいとする価値の意味やあり方を問い続けるための支援の工夫」
工夫として次の４点を挙げています。☆は本時の実際
①導入で今までの自分を振り返る
☆「家族を思いやって生活していますか？，（心の物差しで表す）
②価値にかかわる一人一人の感じ方考え方を引き出す発問（中心発問の吟味）
☆A～Bに変わったことについて，「どうしてこのような気持ちになれたのかな？
③一人一人の感じ方，考え方を比較しやすくした板書（類別して板書する）
☆ネームプレート活用
④理解した価値の意味やあり方を観点にした振り返り
☆「これまでの自分は本当に家族を思いやって生活できていたのかな？（再び心の物差し）気持ちが変わった児童に発表させる。

感想
☆②，③については本校研究と同じ。大きく違うのは導入と終末。常に自分との関わりでとらえさえるという視点から，毎時間，心の物差しで自分を客観視させるとのこと。一定の意味はあると思うが，授業全体が「第３者的，になるきらいがあった。中心発問も「どうしてこのような気持ちになれたのか？，という問いであり，結果，「やらないといけないから，などという「役割・責任の自覚」という価値に着地してしまった。
妹が無心に兄である主人公を頼ってくる姿によって，家族愛に目覚めたという分析の視点がなかったように思う。のちの指導助言でもその点は指摘されていた。

２．「対話」のためのヒント（授業，協議会，全体会から）
①毎朝「フリートーク」と題して，いろいろなテーマで話し合っている。（全校での取り組み）児童は話し，聞くことを楽しんでいる。
②他者と対話することで「楽しかった」「ためになった」と実感する経験をもっと多く積ませる。（全授業）
③子どもたちの意見の差異を見える化（論点を明確に）する。教師は意見を整理する係であり，時には児童と児童をつなぐ通訳者である。



感想
☆子どもたちは話すことを好み，友達の意見をよく聞き，お互いに質問したり，「ああ，なるほど，などと声を出したりすることが多かった。全体的に，授業の流れは子どもたち主体で，教師はあまり口を挟まない。必死に板書で整理している感じ。でも，大事なところでは「ちょっと待った，をかけて，整理したり，意識の方向を変えさせたりしていた。
一方で，あまり発言しない子が置き去りになっている感があったり，流れが変な方向に向かい，些末なことで議論が沸騰してなかなか本流に戻らなかったりという悩みも会間見られた。ねらいとする価値に到達したか？という点で見た時にはやはり物足りなかった。

本校で求める対話・・・。今，新庄小学校の道徳に欠けている「話したい！」「聞きたい！」「なるほど，友達の気持ちわかったよ！，という子どもたちの姿を見ることができた山口の授業。このような姿を実現しつつ，ねらいとする価値を達成させるためには，次の事が大切だと感じた。

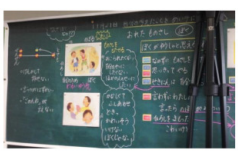
①話すって楽しい，聞くって楽しい！ためになる！という実感の持てる毎日の創造。
②徹底した教材研究（価値の研究）ねらいの明確化。資料分析。
③児童の実態把握。子どもたちがどこに疑問をもち，追究したいと思うだろうかという視点。
④意見の整理力（論点を明確に示す力）

終わりに・・・
あとは・・・仕切りすぎない・・・。子どもたちに「まなび，を手渡す意識が必要だと思いました。
学ぶ主体はあくまでも子どもなんだということを思いました。

←コの字の座席配列。
さっそくやってみたいと思います。

指導助言者の坂本哲彦先生
たいへんわかりやすい，素晴らしいお話をされました！本を買おうと思いました！宇部市西宇部小学校の校長先生です。

←道徳コーナー　簡単で毎回更新できますね！これなら。



←「おれたものさし」の板書記録が後方に掲示してありました。ここの板書は横書きです。

とても密度の濃い１日研修でした。ありがとうございました。

〈事例４〉　道徳だより，学級だより，学校だより（保護者・地域向け）

家庭，地域社会と連携し，地域の文化を共に創り，子供たちを育んでいくという意識の下に，よりよい協力体制を築き上げていきましょう！

道徳通信②

平成 28 年７月 14 日

筒賀中学校区では道徳の授業を通して，こんな児童生徒を育てたいと考えています！

○集団・社会の一員として自覚と責任をもち，**社会に貢献**しようとする意欲をもった児童生徒
○自分を大切にし，他人を大切にして，**思いやり**をもってともに生きる児童生徒

筒賀小・中学校は，ご家庭と手を携えて児童生徒の心を育てていきたいと考えています。ご家庭でもお子様が家族の一員として協力しようとしたり，家族の気持ちを考えて行動したりする場面があれば，「ありがとう！」「がんばっているね」「うれしいよ」等の声をかけていただければと思います。
今後ともご協力よろしくお願いします。

筒賀小・中学校　１学期の道徳の授業。
～子供たちは何を学んだのでしょう？～

各学年の授業を１時間ずつ紹介します。１学期，道徳の時間で，児童生徒がどんなことを考え，思ったのか，ご家庭でも話をしてみてください。

小学校編

「私たちの道徳」とは，児童生徒が道徳的価値について自ら考え，行動できるようになることをねらいとした教材です。

小学１年生

■７月５日「**はしの　うえの　おおかみ**」（わたしたちの道徳　小学校１・２年　p. 70～73）

身近な人たちに温かい心で接し，“親切にしようとする態度”親切にしようとする態度を育てる授業です。
学習の振り返りでは，「わたしは親切にしてもらうとうれしい気持ちになるから，みんなにやさしくしたいです。」等と書いた児童がいました。親切っていいなあ…と感じている児童の様子がうかがえた授業でした。１年生の保護者の皆様には，いつもワークシートに温かいコメントを書いていただきありがとうございます。「はしのうえのおおかみ」では，「親切にされたことを思い出して，優しい気持ちでみんなにも親切にできたらうれしいね。」というコメントをいただきました。今後ともご協力よろしくお願いします。

くまさんが　やさしくしてくれたので　うれしかったです。

役割演技の様子

道徳の時間で学んだことが，行事や日常生活に生かされていることを写真等で紹介することで，保護者の方に具体的に理解してもらいましょう。

豊かな心の成長をめざして

～育て！　可愛っ子　きらりハート～

早いもので１学期も残すところあとわずかとなり，夏休みも間近に迫ってきました。保護者の皆様には，日頃から本校教育にご理解，ご協力いただきありがとうございます。おかげ様で，昨年度より研究を進めています道徳教育も，より充実した取り組みとなってきています。今学期の本校での取り組みを少しですがご紹介します。

ある日の道徳の授業　（１年生：７月６日）

主題：「自分勝手をしないで」　資料「かぼちゃのつる」

１年生の道徳で「かぼちゃのつる」という資料を使って学習をしました。この資料は，自分の畑からぐんぐん自分勝手につるを伸ばしていくかぼちゃのつるが主人公のお話で，いぬやみつばちなどからの注意にも全く耳をかさずにつるを伸ばし続け，結局そのつるを車に切られて初めて自らの自分勝手でわがままな行為に気付くというお話です。
この時間のねらいは，「車にひかれて泣いているかぼちゃの気もちを考えることを通して，自分勝手な行動は，自分も周りの人も嫌な思いをするということに気づき，自分勝手をしないで行動しようとする態度を育てる。」でした。
「車にひかれたかぼちゃは泣きながらどんなことを思っているでしょう。」という発問には，「ごめんなさい。」「助けて」「はじめからみんなの言うことを聞いておけばよかった。」「自分勝手は自分も，周りのみんなも悲しくなるね。」などとかぼちゃのつるになりきって考え，自分勝手をしたらどうしていけないのかを考えることができました。
授業後，わがままな言動があると，「あっかぼちゃさんになってるよ。」「かぼちゃさんにならないように我慢しなくちゃ。」などという声が教室の中で聞かれるようになりました。

道徳の時間と他教科や行事，日常生活とつなげて！

道徳の時間に学習したことが他教科や行事，日常生活の中で実践化できるよう，これらの取り組みの前後に道徳の学習をするようにしています。子供達には道徳の学習で気づいたことや「こんな考え方や生き方をしてみたい」という気持ちを大切にさせながら，めあてをもって活動していくよう仕組んでいます。

１年生歓迎遠足
５月２日
【思いやりの心で】
【ルールや決まりを守って】

運動会
５月22日
【目標に向かって努力しよう】
【友だちと助け合って】

プール掃除（４．５年）
６月10日
【みんなのために働こう】

家庭や地域も道徳性を育てる大切な場です！

もうすぐ夏休み。子供達は家庭や地域で過ごす時間が長くなってきます。家庭は子どもの人格形成の源となる場で，道徳性を育てる場や実践の場はたくさんあります。夏休みは特に，「節度ある生活」「礼儀」「感謝」「思いやり」「勤労」「家族愛」「伝統と文化の尊重」「国や郷土を愛する態度」などを育てるには絶好のよい機会ではないでしょうか。

家庭における道徳教育は，まずは，親と子供の心の交流が深められることが重要だといわれています。家族が一緒に過ごす時間を工夫し，一緒に食事を楽しんだり，本の読み聞かせをして共に想像の世界を広げたりするなど，家庭内で豊かな会話がなされるようにお願いします。また，「私たちの道徳」も持ち帰らせますので，一緒に読んでみてください。

お願い

２学期からの道徳教育に生かすため，お子様の道徳性についてのアンケートを実施いたします。お忙しい中で申し訳ありませんが，保護者の方が感じておられる通りにご回答いただき，封筒に入れて，７月１９日（火）までに担任まで提出してください。

保護者の方へ道徳の時間の様子を知らせることで，家庭でも話題にしてもらいましょう！

〈事例５〉　道徳だより，学級だより，学校だより（保護者・地域向け）

各市町道徳教育推進協議会アンケート結果では，「自校では，道徳教育の取組を通信やホームページなどで計画的に紹介しています」と回答した割合は，61.6%であり，より一層の情報発信に努める必要があります。

道徳教育について理解していただくとともに，家庭や地域で取り組んでいただくことも発信しましょう。

きらりハート

道徳だより

平成２８年　４月１０日号

平成３０年度から小学校では「教科」となる「道徳」。可愛小学校では，昨年度より，文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業の指定を受け，道徳教育の研究に取り組んでいます。

研究テーマ

自己肯定感を高め，よりよい生き方を考える児童の育成

～ねらいにせまる道徳の授業を目指して～

道徳教育って？

道徳は子供達がこれから将来にわたって，よりよく幸せに生きていく上で大切な心を育てていく教育です。道徳の時間は，どの学年も週に一時間ですが，道徳教育は学校の教育活動全体を通して行っています。国語や体育などの各教科の学習や学校行事の際にも，道徳的なねらいをもって取り組んでいます。

では，どのような心を育てているのでしょうか。裏面の一覧表にありますように，育てていく内容（心）が低・中・高学年ごとに決まっていて，一年間かけて計画的に学習しています。

道徳の時間では，主には読み物資料を使って学習しています。資料の中の登場人物の気持ちに寄り添いながら，道徳的な問題について考え，意見を交流し合ったり，今の自分はどうだろうかと，自分自身をしっかりと見つめ，よりよい生き方について考えたりしていきます。

学校・家庭・地域で

道徳教育は，学校だけでなく，家庭，地域が一体となって進めてこそ効果があると言われています。学校で学習した道徳的なことを家庭でも話し合ったり，実践したり・・。子供達が持っている「私たちの道徳」を一緒に読んでいただいてもいいです。「私たちの道徳」には書き込み欄も多くあり，低学年は，お家の方にもコメントを書いていただくこともあるかと思いますので宜しくお願いします。

子供達のハート（心）がきらりと輝くよう，学校・家庭・地域が手を取り合って，子供達の心にたっぷりと栄養を届けていきましょう。一年間ご理解とご協力をお願いします。

三つ巴

～家庭・学校・地域～

夢大きく
～知・徳
キ
本郷

道徳の時間　特別号

小早川隆景に学ぶ～道徳の時間～

みなさんは小早川隆景のことをどれくらい知っていますか。本郷小学校の三つ巴の校章が小早川家の紋章と同じことは知っていると思います。歴史ある町本郷。豊かな沼田川が目の前を流れ、交通の要所であった本郷。この地を小早川隆景は選び、高山城そして新高山城へと移り住みました。激動の戦国時代を小早川隆景はどう生き抜き、そして今も歴史上に名を残す武将になっていったのでしょう。そしてどんな人柄だったのでしょう。今も語り継がれているエピソードは数々あります。歴史の学習や総合的な学習でいろいろと学習をしているかもしれませんね。そのひとつを紹介します。

織田信長の勢力が中国地方に及び、その総司令官羽柴秀吉が毛利方の清水宗治の守る備中高松城を攻めてきました。その戦法も「水攻め」です。城の周りは湖のようになり、毛利輝元、吉川元春、小早川隆景らも兵隊をひさつれ、応援にかけつけましたがどうすることもできませんでした。長いにらみあいの末、城主清水宗治は自らの切腹とひきかえに和睦交渉を成立させました。

こうして，隆景たち，毛利軍と秀吉たち秀吉軍が見守るなか，宗治は船の上で切腹し、毛利軍と秀吉軍との間で約束を書いた「和議文書」（わぎぶんしょ）を交換しました。これで，お互いに約束を交わしたことになります。隆景たち，毛利軍の者は，みんな涙を流したそうです。それを見届けた秀吉軍は，堤防の一部を切り崩したかと思うと，ものすごい速さで東へ遠ざかっていきました。

不思議なことをするものだと輝元、元春、隆景は思いましたが，じつは京都で大変な事件が起こっていたのです。秀吉の主人である織田信長が，秀吉と同じ家来の明智光秀に殺されていたのです。

隆景たちが知ったのは，秀吉軍が退却したすぐ後でした。輝元，元春の二人は，「秀吉軍を追いかけて，後ろから攻撃をしよう。」「清水宗治の敵討ちができる。」などと言い，追撃しようとしました。しかし，隆景は二人の意見をおさめて，「お二人の気持ちは，よく分かります。しかし，秀吉軍を追いかけて攻撃してはいけません。約束の文書を交わしたではありませんか。ここで，追いかけて攻撃をすれば，後々まで毛利軍はひきょう者だと言われます。それに，家来たちも大将が裏切りをするんだから，自分たちだってしてもかまわないと思うようになります。それよりも，毛利軍の旗を追いかけて渡しましょう。中国地方で一番強い毛利軍の旗を持っていたら，きっと秀吉軍の役に立つと思います。」輝元，元春の二人も，隆景の意見に従いました。

その後，秀吉が天下を統一しましたが，隆景の人がらを認めた秀吉は，「事は徳川家康、西は小早川隆景に任せておけば，天下は大丈夫だ。」と言い，隆景を大変信頼したそうです。

小早川隆景は新高山城からどんな思いで本郷の地を見ていたのでしょうね。町並みは変わってきていますが、みなさんも春の遠足で同じ場所から本郷の町をながめましたね。改めて本郷小学校の校章を見てみましょう。この校章には今までこの本郷に生きた方々の様々な思いがこめられているのではないでしょうか。あなたたちはこの本郷の地に何を思いますか。

みなさんは，上記の資料を読み，何を感じましたか？

６年生の児童は，総合的な学習の時間に「小早川隆景」について，調べ学習しています。その調べていることを１０月２２日にリージョンプラザで行われた「希望と未来フォーラム」で，立派に発表をしました。

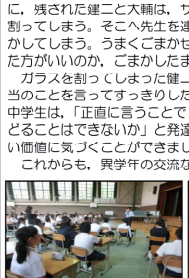
それに関連させて，道徳の時間の学習で「郷土愛」をテーマに「小早川隆景」について学習をしました。６年生の児童に「本郷小学校の校章には今までの本郷の人たちのどのような思いが込められているのだろう」と発問をしました。子どもたちは，「隆景のような立派な人になってほしい」「三つ巴の魂をもった立派な人に育ってほしい」などの考えを発表しました。最後に「みんなにとって本郷はどんな場所ですか」と発問すると，「自分の好きな町」「私にとって大切な場所」「必ず帰ってくるところ」など本郷を大切にしていきたいという思いを語ってくれました。子どもたちが大切にしていきたいと思う「本郷」。郷土を愛する子どもたちをしっかり育てていきたいと感じました。

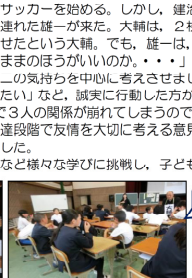
究授業を行いました。

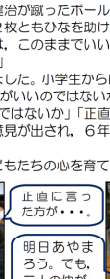
資料は，中学校の「裏庭の出来事」（あかつき出版）を使い，学習を進めました。資料の内容としては，「学校で禁止されている裏庭でサッカーをしていた健二と大輔と雄一。そこに猫に襲われそうになった鳥のひな。雄一はひなを救おうとボールを投げた。ボールにびっくりし猫は逃げ，ひなは助かった。しかし，ボールによってガラスを割ってしまう。そのことを，雄一が正直に先生に報告するため職員室へ行っている間に，残された健二と大輔は，サッカーを始める。しかし，雄治が蹴ったボールが当たり，もう一枚ガラスを割ってしまう。そこへ先生を連れた雄一が来た。大輔は，２枚ともひなを助けようと割ってしまったとごまかしてしまう。うまくごまかせたという大輔。でも，雄一は，このままでいいのか悩む。先生に正直に話した方がいいのか，ごまかしたままのほうがいいのか。・・・」

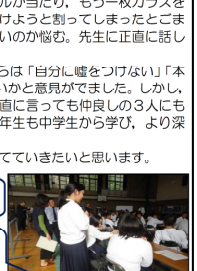
ガラスを割ってしまった健二の気持ちを中心に考えさせました。小学生からは「自分に嘘をつけない」「本当のことを言ってすっきりしたい」など，誠実に行動した方がいいのではないかと意見がでました。しかし，中学生は，「正直に言うことで３人の関係が崩れてしまうのではないか」「正直に言っても仲良しの３人にもどることはできないか」と発達段階で友情を大切に考える意見が出され，６年生も中学生から学び，より深い価値に気づくことができました。

これからも，異学年の交流など様々な学びに挑戦し，子どもたちの心を育てていきたいと思います。









１１月２日　道徳地域公開～地域の方もぜひお越しください。～

１１月１日～１１月７日の１週間は，「みはら元気ウィーク」（学校へ行こう週間）です。その一環として，１１月２日に道徳参観日を行い，地域の方々にも公開をします。保護者の方のみでなく，地域の方も是非，本郷小学校へ足を運んでいただき，子どもたちが自分と向き合い真剣に学習している様子をご覧いただけたらと思います。心よりお待ちしております。日程や学習の内容は以下の通りです。

日時・場所　１１月２日（水）　授業公開　１３：５５～１４：４０　各教室

講演会　１４：４５～１５：４５　体育館

演題：「必聴！聴いて得する親業のはなし！」

講師：三原市教育委員会教育相談指導員　高山　哲俊　先生

授業内容	第１学年	いつもありがとう	（尊敬・感謝）	「ありがとう」（光村図書）
	第２学年	助け合う友達	（信頼・友情）	「森のともだち」（東京書籍）
	第３学年	自分らしさ	（個性の伸長）	「じゃがいもの歌」（東京書籍）
	第４学年	友だちのよさを知る	（信頼・友情）	「ぼくらだってオ　ケストラ」（東京書籍）
	第５学年	チームのために	（約束や規則の尊重）	「星野君の二るい打」（東京書籍）
	第６学年	本当の友達	（信頼・友情）	「ロレンゾの友達」（日本標準）
	あおぞら	毎日を気持ちよく	（規則正しい生活）	「そこだねボンタくん」（光文書院）

道徳地域公開について，学校通信やＨＰ等で紹介し，家庭や地域の方に道徳の授業を公開しましょう。

〈事例６〉　道徳教育に関する掲示板等

教室や校舎内などの環境を整え，児童生徒の豊かな心を育み，道徳的実践への意欲を高めましょう！

全校掲示板を活用しましょう！

学習した内容を常に振り返ることのできる道徳的な環境づくりをしていきましょう！

道徳の時間で学習したことを残していきましょう!!

発達の段階を踏まえた掲示方法を工夫しましょう！

学んだことを全校のものにしていきましょう！

作成協力校一覧

○　平成 26 年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校

呉市立呉中央小学校	大竹市立玖波小学校
北広島町立新庄小学校	三次市立川地小学校
東広島市立高美が丘中学校	府中町立府中中学校
海田町立海田西中学校	福山市立城東中学校
河内高等学校	尾道商業高等学校
芦品まなび学園高等学校	

○　平成 28 年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校・推進地域センター校

廿日市市立津田小学校	安芸高田市立可愛小学校
三原市立本郷小学校	三次市立甲奴小学校
庄原市立高野小学校	竹原市立忠海中学校
東広島市立志和中学校	安芸太田町立筒賀中学校
尾道市立美木中学校	福山市立駅家南中学校

引用・参考文献

・文部科学省（平成 20 年）「小学校学習指導要領解説　道徳編」
・文部科学省（平成 20 年）「中学校学習指導要領解説　道徳編」
・文部科学省（平成 21 年）「高等学校学習指導要領解説　総則編」
・文部科学省（平成 26 年）「『私たちの道徳』小学校　活用のための指導資料」
・文部科学省（平成 26 年）「『私たちの道徳』中学校　活用のための指導資料」
・文部科学省（平成 27 年）「小学校学習指導要領解説　総則編（抄）」
・文部科学省（平成 27 年）「中学校学習指導要領解説　総則編（抄）」
・文部科学省（平成 27 年）「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」
・文部科学省（平成 27 年）「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」
・道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（平成 28 年）「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」
・広島県教育委員会（平成 27 年）「平成 27 年度　広島県教育資料」
・広島県教育委員会（平成 28 年）「平成 28 年度　広島県教育資料」
・福岡県教育委員会（平成 25 年）「道徳教育実践ハンドブック（改訂版）」
・兵庫県教育委員会（平成 26 年）「指導資料『道徳の時間』の充実のために」
・広島県立教育センター（平成 26 年）「授業研究ハンドブック」
・千葉県教育総合教育センター（平成 21 年）「校内研究ガイドブック　授業力アップ」
・鹿児島県総合教育センター（平成 22・23 年度）「みんなで取り組み，学び合う授業研究」
・徳島県立総合教育センター（平成 20 年）「校内研修ハンドブック」
・岩手県立総合教育センター（平成 19 年度）「校内授業研究の進め方ガイドブック」

道徳教育の参考となるホームページ

・広島県教育委員会「豊かな心を育てる道徳教育コーナー」
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/12doutoku/
・文部科学省「道徳教育」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/
・広島県立教育センター「学習指導案例集（小学校　道徳）」
http://www.hiroshima-c.ed.jp/web/an/e/dou/index-dou.html
・広島県立教育センター「学習指導案例集（中学校　道徳）」
http://www.hiroshima-c.ed.jp/web/an/j/dou/index-dou.html

心の元気